

2014 年度 MS-15 活動報告書



学校法人名城大学
MS-26 推進室

はじめに

「2014 年度 MS-15 活動報告書」が出来上がりました。この活動報告書は「MS-15 (2014 年度～) 戦略プラン」の進捗状況を点検・把握し、重要な情報を全体として共有するために、2008 年度から作成してきました。

学校法人名城大学には、2015 年 5 月現在、8 学部・11 研究科、附属図書館・総合研究所を含むセンター等の 10 の全学組織、経営本部、そして附属高等学校が活動を続けています。

このような大規模組織の活動内容を MS-15 (2014 年度～) 戦略プランの枠組みに沿って把握するために、上述したすべての部署にお願いして提出してもらったものが、「MS-15 (2014 年度) 活動報告書 一部署版」です。これは内部資料として大切に保管しています。

そしてこの報告書の内容を MS-26 推進室が総合政策部の協力を得ながら編集し、完成させたものが、この「2014 年度 MS-15 活動報告書」です。

報告書の内容は、例えば「人材の確保と育成」や「教育の充実」のように、MS-15 戦略プランの 8 つのドメイン別に、「成果」の内容を簡潔かつできるだけ具体的な数値を示しながら列挙しています。数字や文字ばかりでは読みにくいと考え、とくに多くの人に着目してもらいたいと考える「成果」の内容については、経年変化を示す図表を挿入しました。また「成果」の内容に続けて、「成果指標」と「関連指標」を列記し、動向を確認しやすくしました。

今後、各部署において、この報告書から見える成果や課題を確認していただき、今年度以降の改善や課題についての議論の材料としていただくことを強く望みます。

2015 年 5 月

学校法人名城大学 MS-26 推進室

目 次

【大学】

1. MS-15（2014年度～）戦略プラン P 3
2. 人材の確保と育成 P 4
3. 教育の充実 P 8
4. 研究の充実 P 12
5. 学生支援体制の充実 P 15
6. 卒業生及び父母との連携強化 P 21
7. 産学官連携の推進 P 23
8. 地域貢献 P 25
9. 経営改革 P 28

【附属高等学校】

1. MS-15（2014年度～）戦略プラン P 33
2. 人材の確保と育成 P 34
3. 教育の充実 P 36
4. 研究の充実 P 40
5. 生徒支援体制の充実 P 42
6. 卒業生及び保護者との連携強化 P 43
7. 産学官連携の推進 P 44
8. 地域貢献 P 45
9. 経営改革 P 46

MS-15 (2014 年度～) 戦略プラン

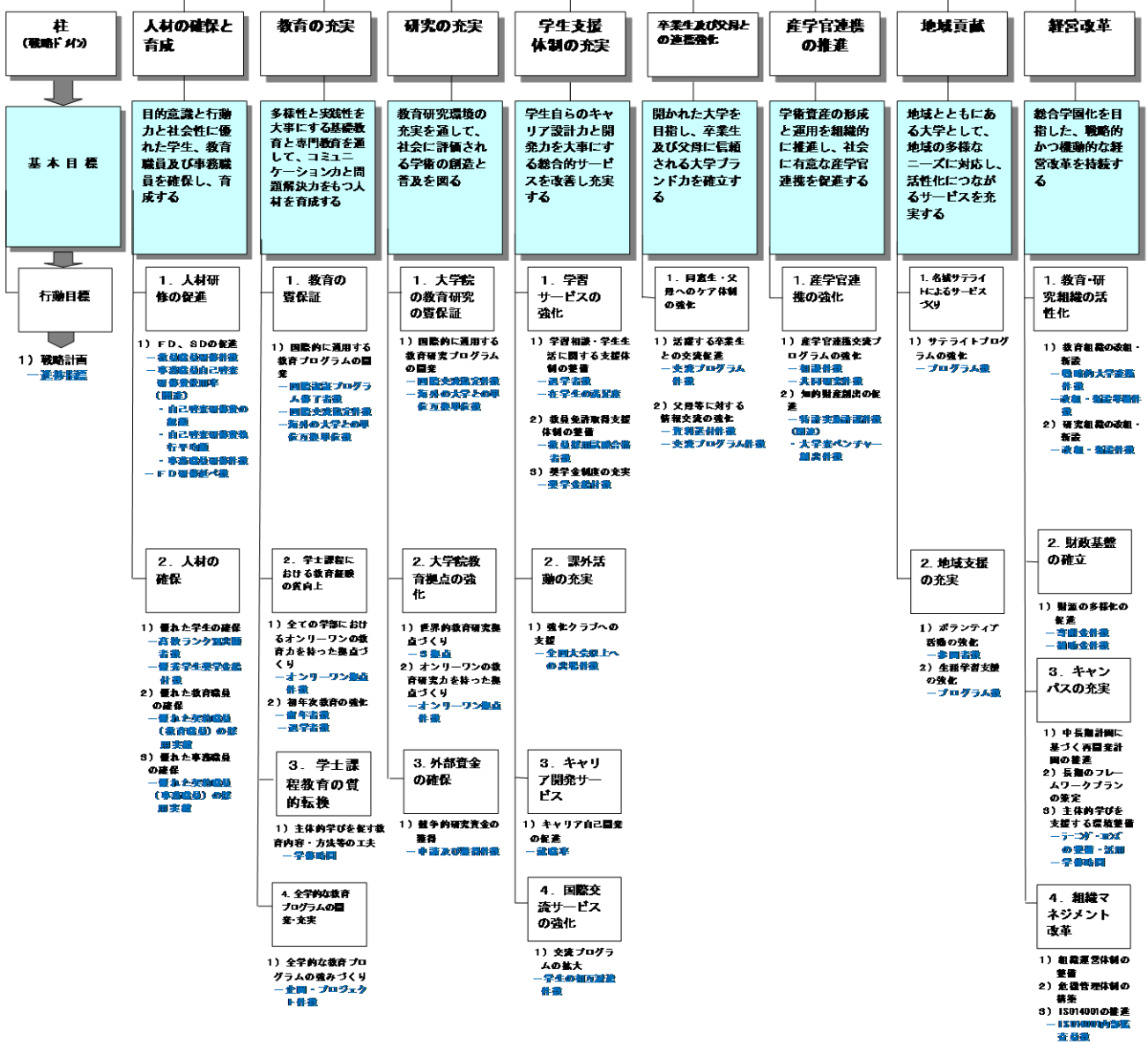
「名城育ちの達人を社会に送り出す」

〔長期ビジョン〕

「総合化」、「高度化」、「国際化」により、広く社会に開かれた日本屈指の文理融合型総合大学を実現する

〔中期ビジョン〕

社会から評価される大学づくりを目指して、「教育力」「研究力」「就職力」「社会力」「資源力」の向上に努める



(人材の確保と育成)**(基本目標)**

「目的意識と行動力と社会性に優れた学生、教育職員及び事務職員を確保し、育成する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 人材研修の促進**

1) FD、SD の促進

2. 人材の確保

1) 優れた学生の確保

2) 優れた教育職員の確保

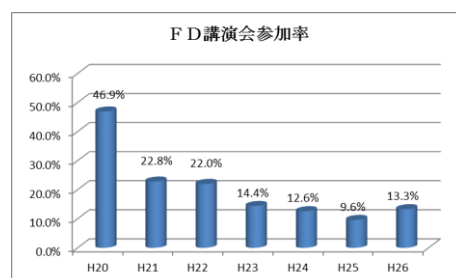
3) 優れた事務職員の確保

(成果)**1. 人材研修の促進**

1) FD、SD の促進

〔第 16 回 FD フォーラム ー参加率 13.3%ー〕

・「成績評価の客観化、厳格化について」をテーマに FD 講演会を実施し、教職員等 109 名 (参加率 13.3%) が参加。(10 月 29 日)



〔第 1 回 FD 学習会を開催 ー40 名参加ー〕

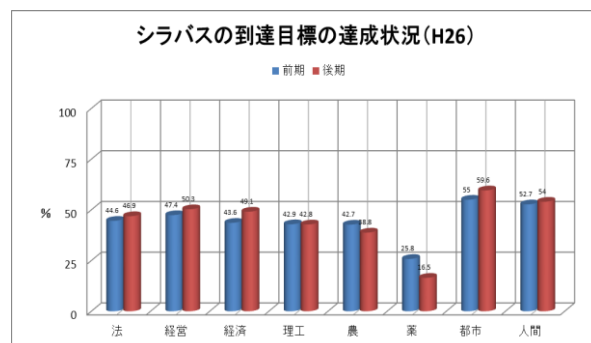
・2015 年 3 月 11 日に、理工学部の大槻敦己教授による「名城大学にとっての IR」をテーマとした FD 学習会を開催し、教職員 40 名が参加した。

〔教育功労賞による表彰 ー 8 取組 (28 名) ー〕

・教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰する「教育功労賞」として、8 取組 (28 名) を表彰した。

〔前期と後期に授業改善アンケートを実施
ー冊子の作成ー〕

・前期 675 授業 (実施率 93.6%)、後期 653 授業 (実施率 94.0%) において、学生による授業改善アンケートを実施し、アンケート結果の集計をして共有した。

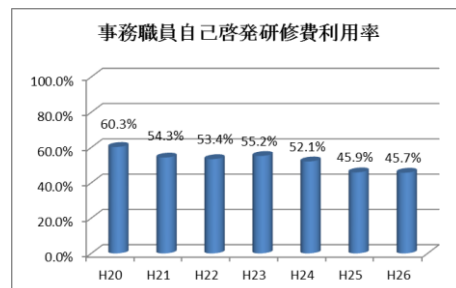


※「強く思う」＋「やや思う」

〔事務職員自己啓発研修費制度

ー一人あたり使用額 23,403 円ー〕

・利用者の一人あたりの使用額は、23,973 円から 23,403 円に減少し、総額 7,886,952 円を支給した。
・自己啓発研修費制度の利用率は 45.92% から 45.70% に減少した。



〔総務部主催の集合研修・他部署との連携型研修の実施〕
(管理職研修)

・管理職者研修として、新任管理職者研修を実施した。
・事務職員の事務長、室長、課長を対象に「2014 年度戦略セミナー 学生が学びを楽しむために」を実施し、37 名が参加した。(1 月 8 日、15 日)

(人材の確保と育成)**(一般職研修)**

- ・予算・決算に関する研修、セルフケア研修、情報セキュリティ研修を実施した。

(若手職員研修)

- ・新入職員研修、若手研修（グループワーキング、プレゼンテーション研修）を実施した。

2. 人材の確保

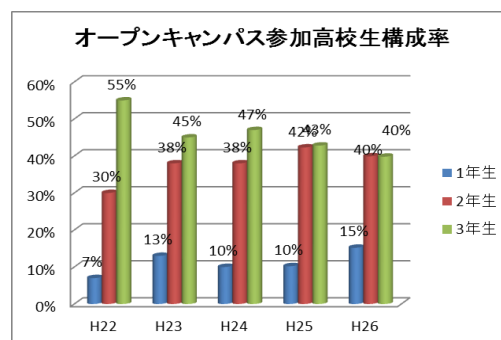
1) 優れた学生の確保

[安定的な志願者（学部）の確保 —2015 年度入試志願者 35,150 名—]

- ・2015 年度入学試験（学部）において、35,150 名の志願者を確保。
- ・リクルートマーケティングパートナーズ社の高校 3 年生が選ぶ「志願したい大学」ランキングにおいて、東海エリアにおいて 1 位を獲得。

[オープンキャンパスの重点化**—過去最高の参加者 12,510 名—]**

- ・オープンキャンパスについて、高校生とその保護者を対象に告知することに重点を置いた広報活動を行い、2014 年度は過去最高の 12,510 名の参加者を得た。
（高校 3 年生の参加者数：3,936 名）
- ・女子学生確保に向け、オープンキャンパスの一企画として「meijo girl's cafe」を開催した。

**[在学生の母校訪問による入試広報 —在学生 140 名が母校訪問—]**

- ・在学生 140 名が母校を訪問し、高校教員に自身の経験に基づく本学の情報を伝達した。

[進学相談会への参加拡大]

- ・前年度実績を考慮しながら相談会会場を精選し、年間 99 回参加した。（2013 年度：28 回）

[高校における大学説明会への参加拡大]

- ・出願の多い高校を中心に、大学説明会として年間 133 件参加した。
（2013 年度：166 件）

2) 優れた教育職員の確保

[多様な雇用形態の確立]

- ・2012 年度に、研究者養成及び博士課程大学院学生支援の観点から創設した「特任助手制度」について検証し、検証結果を踏まえて対応していくこととなった。

[学長枠による契約教員の採用]

- ・学長採用枠により、ジャーナリストの池上彰氏を平成 27 年度は特別講師、平成 28 年度からは契約教員として採用することになった。

3) 優れた事務職員の確保

[契約事務職員の採用（2015 年度 —28 名採用—）]

- ・2015 年度の契約事務職員として 28 名（内 専門職 4 名）採用。

[業務職の採用（2015 年度 —7 名採用—）]

- ・2015 年度の業務職として 7 名採用した。

(人材の確保と育成)

(成果指標)

- ・FD フォーラム参加率 (教職員)・・・(H19) 30.2%→(H20) 46.9%→(H21) 22.8%→(H22) 22.0%
→(H23) 14.4%→(H24) 12.6%→(H25) 9.6%→(H26) 13.3%
- ・FD フォーラム参加者数 (教職員)・・・(H19) 184 名 →(H20) 283 名→(H21) 201 名
→(H22) 273 名→(H23) 134 名→(H24) 124 名→(H25) 79 名→(H26) 109 名
- ・事務職員研修参加延べ人数・・・(H19) 813 名→(H20) 1,023 名 →(H21) 1,027 名
→(H22) 801 名→(H23) 682 名→(H24) 1,100 名→(H25) 1,277 名→(H26) 951 名
- ・事務職員研修件数・・・ (H19) 41 件→(H20) 52 件→(H21) 42 件→(H22) 45 件
→(H23) 37 件→(H24) 44 件→(H25) 66 件→(H26) 35 件

- ・入学志願者 (学部)・・・(H21) 30,390 名

→(H22) 29,405 名 →(H23) 28,989 名

→(H24) 26,272 名→(H25) 30,656 名

→(H26) 33,599 名→(H27) 35,150 名

- ・入学志願者 (修士・専門職)・・・ (H19)541 名

→(H20)576 名 →(H21) 552 名→(H22) 570 名

→(H23) 560 名→(H24) 444 名→(H25) 371 名

→(H26) 329 名→(H27) 328 名

- ・高校ランク別出願者数 (A方式)

(H22) <A1>288、<A2>1,643、<B1> 4,757

→(H23) <A1>318、<A2>1,613、<B1>4,939

→(H24) <A1>389、<A2>1,680、<B1>4,785

→(H25) <A1>332、<A2>1,729、<B1> 4,958

→(H26) <A1>407、<A2>2,144、<B1>5,149

→(H27) <A1> 457、<A2> 2,559、<B1> 5,470

※ベネッセの高校ランキング (A1～E1) までの9ランク

を基に集計

A1：東大・京大への進学者合計30人以上の高校

A2：各都道府県の超進学校

B1：進学校、中堅国公立・難関私大中心に進学

- ・オープンキャンパス参加高校生構成率

(H21) 1年 5%、2年 25%、3年 55%→(H22) 1年 7%、2年 30%、3年 55%

→(H23) 1年 13%、2年 38%、3年 45%→(H24) 1年 10%、2年 38%、3年 47%

→(H25) 1年 10.2%、2年 42.3%、3年 42.8%→(H26) 1年 15.2%、2年 39.9%、3年 39.8%

- ・在学生の母校訪問・・・(H23) 101 名→(H24) 102 名→(H25) 123 名→(H26) 140 名

- ・優秀学生奨学金給付数・・・ (H21) 学業優秀A 185 名、学業優秀C 90 名、都市情報 20 名

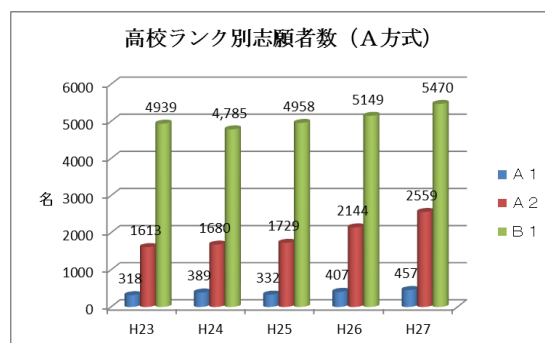
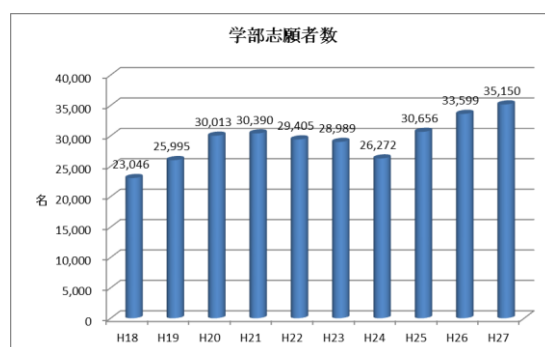
→(H22) 学業優秀A 192 名、学業優秀C 90 名、都市情報 34 名

→(H23) 学業優秀A 192 名、学業優秀C 90 名、都市情報 48 名

→(H24) 学業優秀A 192 名、学業優秀C 90 名、都市情報 37 名

→(H25) 学業優秀A 192 名、学業優秀C 90 名、都市情報 23 名

→(H26) 学業優秀A 192 名、学業優秀C 89 名、都市情報 10 名



(人材の確保と育成)

- ・契約職員（教育職員）採用者数・・・(H20) 5名→(H21) 6名→(H22) 7名→(H23) 1名
→(H24) 0名→(H25) 3名→(H26) 1名（再雇用）→(H27) 3名（内1名再雇用）
- ・契約職員（事務職員／専門）採用者数・・・(H22) 4名→(H23) 8名→(H24) 5名→(H25) 3名
→(H26) 2名→(H27) 4名
- ・契約職員（事務職員／一般）採用者数・・・(H24)25名→(H25)35名→(H26) 0名→(H27)24名

(関連指標)**[学生関係]**

- ・手続率（学部）[手続者数／合格者数]・・・(H20) 33.6%→(H21) 34.6%→(H22) 34.6%
→(H23) 33.2%→(H24) 42.7%→(H25) 31.3%→(H26) 29.1%→(H27) 28.7%
- ・アドミッションポリシーの発信媒体数・・・4(大学案内、合格者への通知文書、入試要項、HP)
- ・オープンキャンパス参加者数・・・(H20) 8,852名→(H21) 9,840名→(H22) 11,348名
→(H23) 11,048名→(H24) 10,903名→(H25) 11,461名→(H26) 12,510名
- ・高校訪問校数・・・(H22) 317校→(H23) 425校→(H24) 351校→(H25) 403校→(H26) 256校
- ・大学説明会・・・(H23) 115校→(H24) 114校→(H25) 166校→(H26) 133校

[教職員関係]

- ・事務職員自己啓発研修費使用率・・・(H19) 54.5%→(H20) 60.3 %→(H21) 54.9%→(H22) 53.4%
→(H23) 55.2%→(H24) 52.1%→(H25) 45.9%→(H26) 45.7%
- ・事務職員自己啓発研修費の総額・・・(H19) 5,163,007 円→(H20) 7,602,113 円
→(H21) 8,838,216 円→(H22) 8,654,707 円→(H23) 8,664,847 円
→(H24) 8,486,541 円→(H25) 7,935,089 円→(H26) 7,886,952 円
- ・事務職員自己啓発研修費執行平均額・・・(H19) 37,144 円→(H20) 25,596 円→(H21) 28,883 円
→(H22) 29,438 円→(H23) 31,838 円→(H24) 29,264 円→(H25) 23,973 円→(H26) 23,403 円
- ・教育職員採用者数
(H21) 25名（教授 8名、准教授 5名、助教 11名、助手 1名）
→(H22) 42名（教授 11名、准教授 16名、助教 15名）
→(H23) 13名（教授 5名、准教授 6名、助教 2名）
→(H24) 19名（教授 5名、准教授 9名、助教 5名）
→(H25) 27名（教授 7名、准教授 10名、助教 9名、特任講師 1名）
→(H26) 16名（教授 6名、准教授 6名、助教 2名、特任講師 2名）
→(H27) 22名（教授 6名、准教授 8名、助教 8名）
- ・特任助手（任期付）採用数・・・(H25) 9名→(H26) 9名→(H27) 5名
- ・事務職員採用者数（業務職除く）
・・・(H21) 11名（新卒 3名、中途 8名）、→(H22) 18名（新卒 8名、中途 10名）
→(H23) 6名（新卒 6名、中途 0名）→(H24) 12名（新卒 6名、中途 6名）
→(H25) 10名（新卒 7名、中途 3名）→(H26) 6名（新卒 4名、中途 2名）
→(H27) 5名（新卒 4名、中途 1名）
- ・事務職員採用者数（業務職）・・・(H23) 25名→(H24) 0名→(H25) 0名→(H26) 0名
→(H27) 7名

(教育の充実)**(基本目標)**

「多様性と実践性を大事にする基礎教育と専門教育を通して、コミュニケーション力と問題解決力をもつ人材を育成する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 教育の質保証**

1) 国際的に通用する教育プログラムの開発

2. 学士課程における教育経験の質向上

1) 全ての学部におけるオンリーワンの教育力を持った拠点づくり

2) 初年次教育の強化

3. 学士課程教育の質的転換

1) 主体的学びを促す教育内容・方法等の工夫

4. 全学的な教育プログラムの開発・充実

1) 全学的な教育プログラムの強みづくり

(成果)**1. 教育の質保証****[外部評価の受審]**

・自己点検・評価報告書に対する外部評価を実施し(11月28日)、2015年度に受審する認証評価(機関別評価)に向けて、課題に対応した。

1) 国際的に通用する教育プログラムの開発

[JABEE への取り組み -修了 271 名-]

・理工学部情報工学科 4 名、電気電子工学科 5 名、材料機能工学科 100 名、機械システム工学科 5 名、交通機械工学科 19 名、建設システム工学科 57 名、環境創造学科 34 名、建築学科 47 名の計 271 名が JABEE 認定プログラムを修了。

・理工学部材料機能工学科が継続審査、建築学科が中間審査を受審した。

2. 学士課程における教育経験の質向上

1) 全ての学部におけるオンリーワンの教育力を持った拠点づくり

[過年度採択の GP 等への支援]

・2012 年度に採択された「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」(薬学研究科)、「大学間連携共同教育推進事業」(教職センター)、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(経営学部) 実施のための支援を行った。

[教育の質保証プロジェクトによる支援 -13 プロジェクト-]

・2014 年度教育の質保証プロジェクトとして、25,000 千円【新規 5 件(理工学部、薬学部、薬学研究科、総合学術研究科、大学・学校づくり研究科)、継続 8 件(理工学部、農学部、薬学部、大学教育開発センター)】を支援した。

[2015 年度教育課程の改正]

・2015 年度教育課程の改正を行った。(経営学部、経済学部、農学部、薬学部、都市情報学部、人間学部)

[薬剤師国家試験で合格率 84.12% -全国私立大学 2 位-]

・第 100 回薬剤師国家試験において、合格率が 84.12% となり、全国の私立大学中 2 位となった。(既卒者を含む) [6 年制課程卒業生(新卒受験者)の合格率は、88.56%]

(教育の充実)**[人材育成に関わる連携協定の締結 一名古屋銀行との締結]**

- ・本学を始め、愛知大学、愛知淑徳大学、中京大学、名古屋学院大学、南山大学の6大学が、名古屋銀行と人材育成に関わる連携協定を締結した。
(2015年2月23日締結)

2) 初年次教育の強化

[リメディアル教育等の充実]

- ・入学後の学習支援プログラムを理工学部、薬学部及び都市情報学部で実施した。
- ・大学での学びの基礎となる高校までの学習内容の学び直しを目的とした「名城サプリメント教育」を開始した。5講座開講し、224名が参加した。

3. 学士課程教育の質的転換

1) 主体的学びを促す教育内容・方法等の工夫

[教育課程の体系化に向けた「科目ナンバリング」の検討]

- ・全学部・学科において、教育課程の検証を行い、「カリキュラムマップ」を策定し、併せて科目ナンバリングの導入に向けた検討を実施した。科目ナンバリングについては、引き続き、ルール等を検討することとなった。

[GPA制度の導入に向けた検討]

- ・大学協議会の下に「GPA制度導入検討ワーキンググループ」を設置し、GPA制度の導入に向けた基本方針等について検討し、2016年度から導入することとなった。

4. 全学的な教育プログラムの開発・充実

1) 全学的な教育プログラムの強みづくり

[入学前教育の充実 ーMEC受講者数 551名ー]

- ・大学での学習の関連性を明確にし、基礎学力と学習意欲の向上を狙いとして、入学前学習プログラム(MECプログラム)を実施し、551名の受講者(受講率50.1%)を得た。

[全学部対象の英語多読プロジェクトの推進 ー利用者数 17,975名ー]

- ・「多読ルーム」において、蔵書数31,980冊を整備し、2014年度は利用者数17,975名、貸出冊数34,558冊の実績を上げ、学生の英語運用能力向上に努めた。

[2015年度以降の教養教育の運営体制の構築]

- ・2015年度からの教養教育の見直しを含めた教育課程の改正(経営学部、経済学部、農学部、薬学部、都市情報学部、人間学部)を行い、それぞれに基軸科目を設定した。

[2014年度「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ1、3、4に選定]

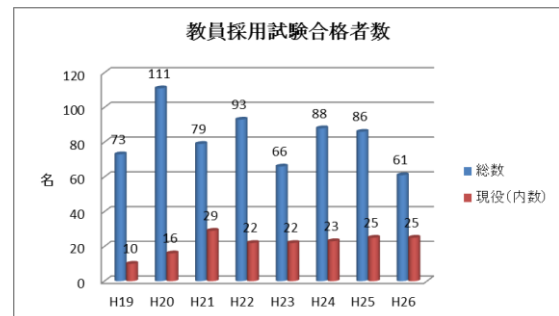
- ・タイプ1「教育の質的転換」、タイプ3「産業界・他大学等との連携」、タイプ4「グローバル化」に選定された。

(教育の充実)**(成果指標)**

- ・ JABEE 修了者数・・・(H19) 228 名 → (H20) 294 名 → (H21) 311 名 → (H22) 348 名
→ (H23) 283 名 → (H24) 296 名 → (H25) 265 名 → (H26) 271 名
- ・ 学術交流協定新規件数・・・(H23) 5 件 → (H24) 8 件 → (H25) 5 件 → (H26) 4 件
- ・ 海外の大学との単位互換単位数
・・・(H23) 114 単位 → (H24) 116 単位 → (H25) 30 単位 → (H26) 90 単位

※交換留学単位認定数、年度は主な交換留学期間基準で計算

- ・ GP 等採択件数・・・(H18) 薬 1 件 (医療人 GP) → (H19) 薬 1 件 (がんプロ)
→ (H20) 教職 1 件 (専門職)、薬 1 件 (戦略的連携) → (H21) キャリアセンター 1 件
→ (H22) 経営 1 件 → (H23) 薬 1 件 (医療人材) → (H24) 薬 1 件 (がんプロ)、
教職 1 件 (大学間連携)、経営 1 件 (産業界ニーズ) → (H25) 0 件
→ (H26) 0 件
- ・ 新司法試験合格者数・・・(H18) 2 名 → (H19) 6 名 → (H20) 5 名 → (H21) 7 名
→ (H22) 10 名 → (H23) 7 名 → (H24) 8 名 → (H25) 10 名 → (H26) 3 名
- ・ 新司法試験合格率・・・(H18) 40.0% → (H19) 30.0% → (H20) 16.1% → (H21) 18.9%
→ (H22) 20.0% → (H23) 9.7% → (H24) 11.1% → (H25) 17.2% → (H26) 4.4%
- ・ 薬剤師国家試験合格者数[6 年制課程卒業生(新卒受験者)]・・・(H23) 196 名 → (H24) 199 名
→ (H25) 204 名 → (H26) 209 名
- ・ 薬剤師国家試験合格率[6 年制課程卒業生(新卒受験者)]
・・・(H23) 98.99% → (H24) 100%
→ (H25) 91.07% → (H26) 88.56%



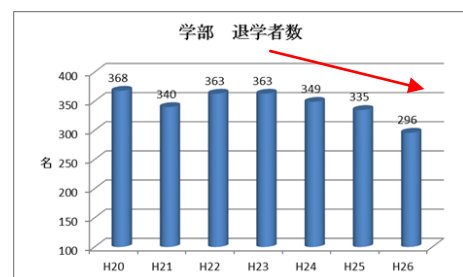
- ・ 教員採用試験合格者数・・・(H19 採用) 55 名
→ (H20 採用) 73 名 → (H21 採用) 111 名
→ (H22 採用) 75 名 → (H23 採用) 93 名
→ (H24 採用) 66 名 → (H25 採用) 88 名
→ (H26 採用) 86 名 → (H27 採用) 61 名
- ・ 英語多読プロジェクト

(H20)利用者約 5,000 名、貸出冊数約 10,000 冊

→(H21)利用者 30,668 名、貸出冊数 64,123 冊 → (H22)利用者 38,708 名、貸出冊数 84,284 冊
→(H23)利用者 28,567 名、貸出冊数 60,294 冊 → (H24)利用者 25,079 名、貸出冊数 54,229 冊
→(H25)利用者 21,412 名、貸出冊数 44,896 冊 → (H26)利用者 17,975 名、貸出冊数 34,558 冊

- ・ MEC 受講者数・・・(H20) 1,188 名 → (H21) 785 名 → (H22) 554 名 → (H23) 497 名
→ (H24) 523 名 → (H25) 509 名 → (H26) 551 名

- ・ 退学者数・・・(H20 学部) 368 名
→ (H21 学部) 340 名 → (H22 学部) 363 名
→ (H23 学部) 363 名 → (H24 学部) 349 名
→ (H25 学部) 335 名 → (H26 学部) 296 名
(H20 修士) 10 名 → (H21 修士) 28 名
→ (H22 修士) 27 名 → (H23 修士) 31 名
→ (H24 修士) 30 名 → (H25 修士) 24 名
→ (H26 修士) 16 名



(教育の充実)

- ・卒業率・・・(H20 学部) 84.6%→(H21 学部) 78.9%→(H22 学部) 81.3%
→(H23 学部) 81.7%→(H24 学部) 83.2%→(H25 学部) 84.3%→(H26 学部) 86.30%
(H20 修士) 86.3%→(H21 修士) 83.7%→(H22 修士) 84.9%→(H23 修士) 86.9%
→(H24 修士) 88.3%→(H25 修士) 86.7%→(H26 修士) 86.90%
※当年度の5月1日現在の在籍者数に占める
卒業生(修了者)数の率

(関連指標)

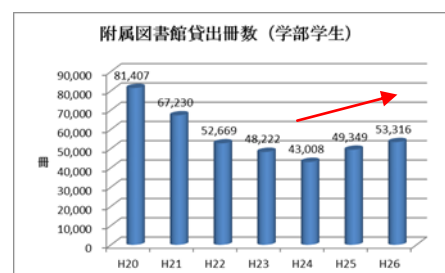
- ・GP等申請件数・・・(H19) 3件→(H20) 9件→(H21) 4件→(H22) 2件→(H23) 1件
→(H24) 3件→(H25) 0件→(H26) 2件
- ・高大一貫・連携プログラム数
 - ・・・(H20)都市3件、人間1件→(H21)都市3件、人間1件→(H22)都市3件、人間1件
→(H23)都市3件、人間1件→(H24)都市3件、人間1件→(H25)都市3件、人間1件
→(H26)都市3件、人間1件
- ・人間学部への高大一貫入学者数
 - ・・・(H20) 16名→(H21) 18名→(H22)25名→(H23) 21名→(H24) 8名→(H25) 7名
→(H26) 7名
- ・シラバスの到達目標達成状況

	法	経営	経済	理工	農	薬	都市	人間
前期	44.6	47.4	43.6	42.9	42.7	25.8	55.0	52.7
後期	46.9	50.3	49.1	42.8	38.8	16.5	59.6	54.0

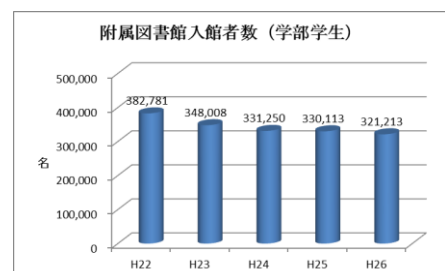
※「強く思う」+「やや思う」の率

- ・授業満足度(総合満足度)
 - ・・・(H19) 53.0%→(H20) 48.2%→(H21) 52.6%→(H22) 50.0%→(H23) 58.2%
→(H24)前期 59.2%、後期 63.0%→(H25～)測定していない
※強く思う、やや思うと回答した人の率

- ・小学校免許認定試験合格者・・・(H20)3名
→(H21)0名→(H22) 0名→(H23) 3名
→(H24) 2名→(H25) 5名→(H26) 3名



- ・図書館貸出冊数(学部学生)・・・(H21) 67,230冊
→(H22) 52,669冊→(H23) 48,222冊
→(H24) 43,008冊→(H25) 49,349冊
→(H26) 53,316冊



- ・図書館入館者数(学部学生)・・・(H21) 399,112名
→(H22) 382,781名→(H23) 348,008名
→(H24) 331,250名→(H25) 330,113名
→(H26) 321,213名

(研究の充実)**(基本目標)**

「教育研究環境の充実を通して、社会に評価される学術の創造と普及を図る。」

(行動目標・戦略計画)**1. 大学院の教育研究の質保証**

- 1) 国際的に通用する教育研究プログラムの開発

2. 大学院教育拠点の強化

- 1) 世界的教育研究拠点づくり
- 2) オンリーワンの教育研究力を持った拠点づくり

3. 外部資金の確保

- 1) 競争的研究資金の獲得

(成果)**1. 大学院の教育研究の質保証**

- 1) 国際的に通用する教育研究プログラムの開発

[大学院生助成制度の充実化]

- ・大学院生の国際的な研究活動を奨励することを目的とする「国際的調査・研究補助制度」において、修士課程 3 名に総額 852 千円支援した。
- ・大学院生研究助成として、修士課程 18 名、博士後期課程 12 名に総額 5,891 千円支援した。

[アジア大学教員学位取得支援奨学生制度の創設]

- ・アジアの大学教員又は大学と雇用契約を結ぶ研究助手 (R A) で本学の博士後期課程で学ぶことを希望する者に対する奨学金制度を導入した。(2015 年度関係分から適用)

[研究支援員制度の導入—2015 年度から—]

- ・2015 年度から実施する外部資金を原資とする研究プロジェクトに関して、博士後期課程及び博士課程に在学する学生を対象とする研究支援員制度の導入に向けて準備を進めた。

2. 大学院教育拠点の強化

- 1) 世界的教育研究拠点づくり

[理工学研究科 赤崎終身教授がノーベル賞を受賞]

- ・2014 年ノーベル物理学賞について、青色発光ダイオード (青色 LED) を世界で初めて実現させた理工学研究科 赤崎勇終身教授が受賞した。(12 月 10 日 スウェーデンのストックホルムの授賞式にて)
- ・名古屋観光ホテルにおいて、赤崎勇終身教授と元名城大学教授で名古屋大学の天野浩教授のノーベル物理学賞受賞を祝う記念式典と祝典を行った。(名城大学、名古屋大学、豊田合成株式会社の共催) (2015 年 1 月 30 日)

[理工学研究科 赤崎終身教授が恩賜賞・日本学士院賞を受賞]

- ・理工学研究科 赤崎勇終身教授が、優れた業績の研究者に贈られる、恩賜賞・日本学士院賞を受賞した。
- ・名古屋観光ホテルにおいて、赤崎勇終身教授の恩賜賞・日本学士院賞の受賞を祝う記念祝賀会を行った。(7 月 19 日)

[LED 共同研究センターを核とした共同研究 —共同研究 9 社—]

- ・「LED 共同研究センター」において、9 社との共同研究を実施。

- 2) オンリーワンの教育研究力を持った拠点づくり

[学内助成事業 — 59 件支援—]

- ・5 つの学内助成事業を対象に公募を実施し、選定した結果、59 件で総額 66,120 千円を助成。

(研究の充実)**[戦略的研究基盤形成支援事業 -平成 27 年度分 2 件申請-]**

- ・平成 26 年度分の「戦略的研究基盤形成支援事業」に、1 件申請したが、不採択となった。平成 27 年度分は、2 件申請した。

[アジア研究センター研究助成プロジェクト - 4 件支援-]

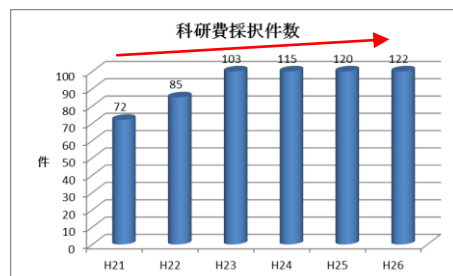
- ・アジア研究センターの研究助成プロジェクトとして、公募型プロジェクト 4 件、総額：3,777 千円を助成。

3. 外部資金の確保

1) 競争的研究資金の獲得

[科学研究費助成事業採択件数 - 122 件-]

- ・2014 年度の科学研究費助成事業は、223 件の申請に対して、122 件 (207,169 千円) の採択となり、採択件数は前年度比 2 件の増となった。

**[科学研究費助成事業獲得に向けた支援策の充実]**

- ・科学研究費を柔軟に使用できるよう、執行の範囲を広げた。

[受託性大型プロジェクト -151 百万円-]

- ・受託性大型プロジェクトとして、22 件、151 百万円が採択された。

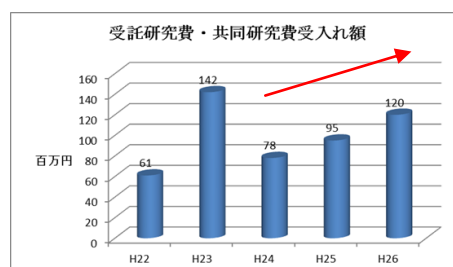
[JST 研究成果最適展開支援事業 (A-STEP) -1 件採択-]

- ・JST 研究成果最適展開支援事業 (A-STEP) の探索タイプに、23 件申請し、1 件が採択された。

[受託研究費・共同研究費]

-119,707 千円 (105 件) -

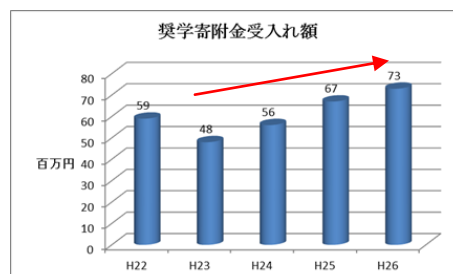
- ・受託研究費と共同研究費を新規に 65 件 (75,283 千円) 受け入れ、継続分と合わせて 119,707 千円 (105 件) となった。

**[奨学寄附金 - 73,277 千円-]**

- ・奨学寄附金を 70 件受け入れ、73,277 千円となり、前年度比 6,580 千円増となった。

[日本学術振興会研究成果の社会還元]**・普及事業 -3 件採択-**

- ・「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に 3 件 (1,209 千円) 採択された。



(研究の充実)**(成果指標)**

- ・ 学術交流協定新規件数・・・(H23) 5 件→(H24) 8 件→(H25) 5 件→(H26) 4 件
- ・ 海外の大学との単位互換単位数
 - ・・・(H23) 114 単位→(H24) 116 単位→(H25) 30 単位→(H26) 90 単位
 - ※交換留学単位認定数、年度は主な交換留学期間基準で計算
- ・ 学内助成事業・・・(H19) 52 件→(H20) 47 件→(H21) 50 件→(H22) 50 件→(H23) 47 件
→(H24) 51 件→(H25) 58 件→(H26) 59 件
- ・ 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業件数・・・(H21) 2 件→(H22) 2 件→(H23) 2 件
→(H24) 4 件→(H25) 2 件→(H26) 2 件
- ・ 科学研究費助成事業申請・採択件数(継続込)
 - ・・・(H22) 211 件〔採択 85 件〕→(H23) 212 件〔採択 103 件〕
 - (H24) 203 件〔採択 115 件〕→(H25) 195 件〔採択 120 件〕
 - (H26) 223 件〔採択 122 件〕
- ・ 厚生労働省科学研究費補助金申請・採択件数・・・(H21) 4 件〔採択 2 件〕
→(H22) 6 件〔採択 3 件〕→(H23) 5 件〔採択 2 件〕→(H24) 3 件〔採択 2 件〕
→(H25) 0 件〔採択 0 件〕→(H26) 0 件〔採択 0 件〕
- ・ 受託研究・共同研究受入件数・・・(H22) 57 件(内新規 41 件)→(H23) 74 件(内新規 54 件)
→(H24) 71 件(内新規 45 件)→(H25) 76 件(内新規 47 件)→(H26) 105 件(内新規 65 件)
- ・ 受託研究費・共同研究費額・・・(H22) 61,386 千円(内新規 41,336 千円)
→(H23) 142,266 千円(内新規 129,191 千円)→(H24) 78,380 千円(内新規 35,236 千円)
→(H25) 94,852 千円(内新規 48,692 千円)→(H26) 119,707 千円(内新規 75,283 千円)
- ・ 奨学寄附金受入件数・・・(H19) 62 件→(H20) 68 件→(H21) 67 件→(H22) 75 件
→(H23) 67 件→(H24) 65 件→(H25) 75 件→(H26) 70 件
- ・ 奨学寄附金額・・・(H19) 58 百万円→(H20) 73 百万円→(H21) 66 百万円→(H22) 59 百万円
→(H23) 48 百万円→(H24) 56 百万円→(H25) 67 百万円→(H26) 73 百万円
- ・ 受託性大型プロジェクト・・・(H21) 294 百万円→(H22) 175 百万円→(H23) 136 百万円
→(H24) 152 百万円→(H25) 102 百万円→(H26) 151 百万円
- ・ 大型装置採択件数・・・(H21) 1 件→(H22) 1 件→(H23) 0 件→(H24) 2 件→(H25) 0 件
→(H26) 0 件
- ・ 私大研採択件数・・・(H21) 2 件→(H22) 1 件→(H23) 2 件→(H24) 3 件→(H25) 1 件
→(H26) 1 件
- ・ 総合研究所

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
論文・紀要への投稿数(本)	61	51	53	51	51	77
研究成果発表回数(回)	1	1	1	1	3	4

(学生支援体制の充実)**(基本目標)**

「学生自らのキャリア設計力と開発力を大事にする総合的サービスを改善し充実する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 学習サービスの強化**

- 1) 学習相談・学生生活に関する支援体制の整備
- 2) 教員免許取得支援体制の整備
- 3) 奨学金制度の充実

2. 課外活動の充実

- 1) 強化クラブへの支援

3. キャリア開発サービス

- 1) キャリア自己開発の促進

4. 国際交流サービスの強化

- 1) 交流プログラムの拡大

(成果)**〔学生実態調査アンケートの実施〕**

・全学生を対象に実施した「学生実態調査アンケート」について、報告書として取りまとめ、全学で共有した。

〔2014年度卒業生へのノーベルチョコレートメダルの配布〕

・理工学研究科 赤崎勇終身教授のノーベル物理学賞の受賞を機に、2014年度卒業生のエンカレッジを目的として、全員にノーベルチョコレートメダルを配布した。

1. 学習サービスの強化**〔事務システムの統合化による情報の利活用の向上〕**

・学内統一DBを作成した。(教員情報システム、学務・入退室管理、利用者管理のシステム)

1) 学習相談に関する支援体制の整備**〔学習相談室(可児キャンパス)の設置〕**

・2014年度から、可児キャンパスにおいて、学生の学習方法に関する悩み相談等を目的とした「学習相談室」を開設した。(2014年度累計 34名利用)

〔学習相談室(天白キャンパス)の設置〕

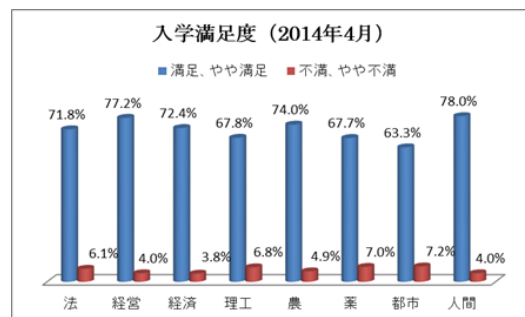
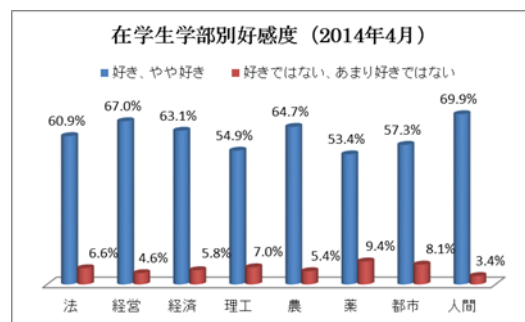
・2014年度後期から、天白キャンパスにおいて、学生の学習方法に関する悩み相談等を目的とした「学習相談室」を開設した。(2014年度累計 15名利用)

〔保健センターの体制強化 ―臨床心理士2名配置―〕

・2014年度から、臨床心理士2名を専任職員として配置。

〔カウンセリング体制の強化 ―カウンセラー対応件数1,802件―〕

・カウンセラーの対応件数は、1,802件(学部生1,545件、大学院生257件)対応した。



(学生支援体制の充実)

2) 教員免許取得支援体制の整備

[2015年度公立学校教員採用試験 —61名合格—]

- ・学習会、勉強会、小論文、教育実習の事前指導における模擬授業を充実させ、2015年度公立学校教員採用試験において、昨年度より25名少ない61名（内現役25名）が合格した。

[2015年度小学校教員資格認定試験 —3名合格—]

- ・小学校教員資格認定試験対策講座の受講者の内、昨年度より2名少ない3名が合格した。

3) 奨学金制度の充実

[現状分析に基づく奨学金制度の再配分]

- ・2014年度から、より効果的な配分を行うことを目的として、学業優秀奨学金、入試成績優秀奨学金、強化クラブ等育成奨学金等を見直した。

[東日本大震災被災者（学生）支援 —3名、4,715千円—]

- ・2014年度東日本大震災被災者支援として、3名に4,715千円を支援し、志願者4名に対して、入学検定料を免除した。

[赤崎奨学金の支給 —5名に支給—]

- ・寄附者である理工学研究科赤崎勇終身教授の意向に基づく大学院博士後期課程の研究活動を奨励することを目的とした「赤崎奨学金」として、5名の学生に奨学金を支給した。

[法学部中山健男奨学金の支給 —4名に支給—]

- ・故中山健男法学部元教授の意向により、名城大学法学部及び大学院法学研究科の教育研究活動を奨励することを目的とした「法学部中山健男奨学金」として、4名の学生に奨学金を支給した。

[メイドー・MCS・長谷川奨学金の支給 —8名に支給—]

- ・寄附者である長谷川士郎氏の意向により、学部生の教育研究活動を奨励することを目的とした「メイドー・MCS・長谷川奨学金」として、8名の学生に奨学金を支給した。

2. 課外活動の充実

1) 強化クラブへの支援

[強化クラブ合宿所によるクラブ支援]

- ・強化クラブの支援を目的として、本学と長期賃貸借契約を締結するスキームによる構想を検討し、2015年からの入居に向けて準備を進めた。

[課外活動団体への援助 —101,454千円の援助—]

- ・強化スポーツクラブを始めとする課外活動団体に援助金として101,454千円を支給し、昨年度より748千円増加した。

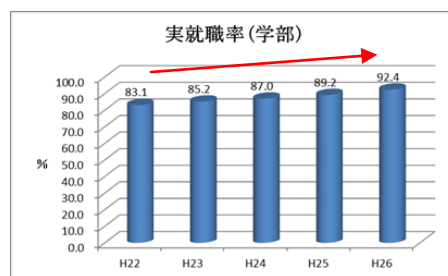
3. キャリア開発サービス

1) キャリア自己開発の促進

[各種指導行事によるきめ細かな対応**—実就職率（学部）92.4%—]**

- ・1・2年生を対象とした講演会、就職対策講座、就職模擬試験、模擬面接、専門家による公務員講座・公務員個別相談を実施。

※実就職率=就職者数÷(卒業生数-大学院進学者数)



(学生支援体制の充実)**[3年次個人面談率**

—85.4% (3年次グループ面談率：87.7%)—

- ・キャリアセンターにおいて、日々の学生面談・相談に加え、文系学部・農学部を中心に全3年生を対象に面談を実施した結果、3年次の個人面談率は、昨年度より1.7ポイント減少し、85.4%となった。

[ガイダンスの実施 —学生満足度 88.3%—]

- ・学部3年生・大学院1年生を対象に、就職活動の流れに応じてガイダンス、Uターン希望学生、外国人留学生を対象としたガイダンスを実施した。
- ・平均出席率は、昨年度より3.8ポイント上昇し、83.5%となった。
- ・学生満足度は、昨年度より2.4ポイント減少し、88.3%となった。

[学内企業セミナーの実施 —学生 23,391名参加—]

- ・企業担当者を招き、企業セミナーを開催した。831社に対して学生23,391名の参加があった。

[就職情報交換会の実施 —企業満足度 95.0%—]

- ・2014年10月31日に、企業との就職情報交換会を実施し、289社から416名の出席があり、企業の満足度は、95.0%となった。

[1年次グループ面談率 —57.3%—]

- ・天白キャンパス（理工学部除く）の1年生を対象に、卒業後を見据えて学生時代に何をすべきかを考えさせることを目的にグループ面談を実施し、出席率が昨年度より0.1ポイント上昇した。

[父母を対象に就職説明会の開催]

- ・2014年6月14日に、学部3年生の父母を対象とした「就職説明会」を開催し、496名の父母が参加した。

[公務員試験対策の充実]

- ・学生アンケートや他大学調査の結果を活かし、講師との打ち合わせを重ね目標を共有化し、講座の新設・改廃及びカリキュラム・授業内容等の充実・改善を図った。

[インターンシップの充実 —515名の学生を派遣—]

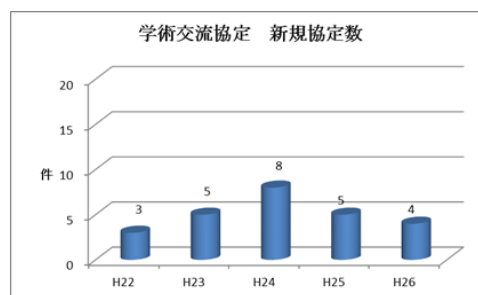
- ・企業等と学生とのマッチングを図り、学生515名を企業等に派遣した。(前年比65名増)

4. 国際交流サービスの強化**1) 交流プログラムの拡大****[海外の大学等との新規学術交流の協定 —4大学—]**

- ・新たに、INSEECグループ、アイルランガ大学、ヤンゴン外国語大学、北京建築大学と協定を締結し、計74大学・機関となった。

[海外研修留学プログラムの充実 —18プログラムの実施—]

- ・海外英語研修として、17プログラム実施した。(2013年度：3プログラム)
- ・スタディーツアーとして、1プログラムを実施した。(2013年度：4プログラム)

**[大学間の交換留学制度の構築]**

- ・大学間レベルの交換留学制度の拡充に向けて検討し、準備を進めた。
- ・交換留学の派遣及び受け入れに対する経済的支援を拡充するため、奨学制度を見直した。

(学生支援体制の充実)**[英語の自律的学習支援施設の整備]**

- ・「名城大学 国際化計画 2013」に基づき、ナゴヤドーム前キャンパス及び天白キャンパスに設置予定の英語の自律的学習支援施設 (M-SALK) の機能と運営体制について検討した。
- ・語学教育で実績のある神田外語大学と大学教育に関する基本協定を締結し、グローバルプラザを核とした本学の英語学習の充実に向けてノウハウを提供してもらうこととなった。
(12月15日)

[米国ディクシー州立大学の学生と教職員との交流 —学生6名、教職員3名が来学—]

- ・本学の協定校である米国ユタ州のディクシー州立大学の学生6名と教職員3名が来学し、本学の学生、教職員と交流した。(2015年3月5日から9日)

[海外英語研修派遣支援制度の構築]

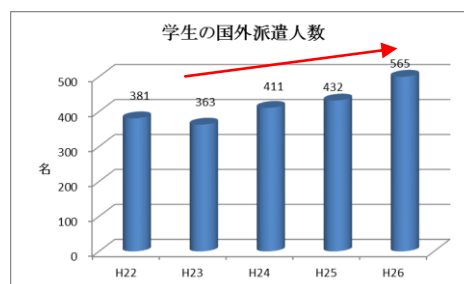
- ・2014年度から、海外派遣支援制度として、海外英語研修派遣支援制度 (特別奨学金20万円、一般奨学金5万円) を創設し、支給した。

[SA制度の充実 —45名新規登録—]

- ・留学生を多面的にサポートするボランティアスタッフとして45名が新規登録し、交換留学生の空港への迎え、日本語学習支援など様々な面で留学生をサポートした。
(SA登録者数: 113名)

[学生の国外派遣人数 —565名—]

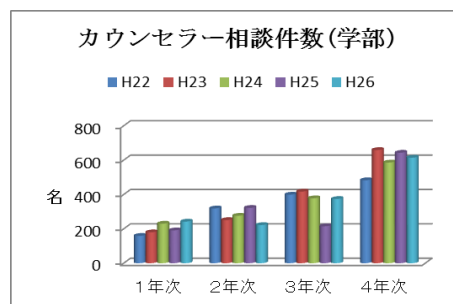
- ・2014年度中の学生の国外派遣人数は565名となり、昨年度より133名増加した。

**[海外研修に引率としてサポート****—81名の教職員派遣—]**

- ・各学部・研究科の海外研修、学会発表、ゼミ合宿等において、81名の教職員を引率として派遣した。

(成果指標)

- ・カウンセラー対応件数
 - ・・・(H20)1,424件 →(H21)1,368件
 - (H22)1,638件→(H23)1,828件→(H24)1,811件
 - (H25)1,665件→(H26)1,802件
(H26学部学生内訳)
 - 1年 242件、2年 222件、3年 374件、
 - 4年 614件、5年 22件、6年 71件



- ・在学生の学部別好感度

	法	経営	経済	理工	農	薬	都市	人間
好き	60.9	67.0	63.1	54.9	64.7	53.4	57.3	69.9
好きではない	6.6	4.6	5.8	7.0	5.4	9.4	8.1	3.4

※「好き」→「好き」+「やや好き」(%)

※「好きではない」→「好きではない」+「あまり好きではない」(%)

- ・入学満足度

	法	経営	経済	理工	農	薬	都市	人間
満足	71.8	77.2	72.4	67.8	74.0	67.7	63.3	78.0
不満	6.1	4.0	3.8	6.8	4.9	7.0	7.2	4.0

※「満足」→「満足」+「やや満足」(%)

※「不満」→「不満」+「やや不満」(%)

(学生支援体制の充実)

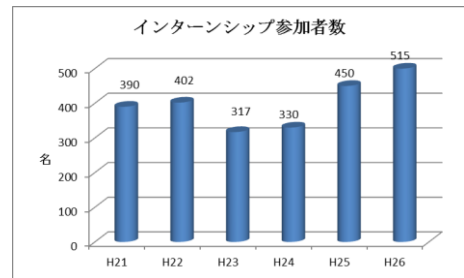
- ・退学者数・・・(H19 学部) 320名 →(H20 学部) 368名→(H21 学部) 340名
→(H22 学部) 363名→(H23 学部) 363名→(H24 学部) 349名→(H25 学部) 335名
→(H26 学部) 296名
(H19 修士)13名→(H20 修士) 10名→(H21 修士) 28名→(H22 修士) 27名
→(H23 修士) 31名→(H24 修士) 30名→(H25 修士) 24名→(H26 修士) 16名
- ・学長表彰・・・(H19) 20団体、74名→(H20) 21団体、62名 →(H21) 18団体、42名
→(H22) 22団体、50名 →(H23) 19団体、45名→(H24) 15団体、55名
→(H25) 15団体、81名→(H26) 17団体、79名
- ・課外活動における全国大会以上の出場件数・・・(H21)53件 →(H22)72件 →(H23) 54件
→(H24) 53件→(H25) 60件→(H26) 72件

〔課外活動の主な成績 (H26)〕

- ・特別強化クラブ (2クラブ)、強化クラブ (5クラブ)、準強化クラブ (スポーツ系3クラブ、文化系4クラブ) を重点的に支援した。
 - ・女子駅伝部が、第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において7位。2014全日本大学女子選抜駅伝競走において4位。
 - ・アメリカンフットボール部が、第40回東海学生アメリカンフットボール秋季リーグ戦において優勝。全日本大学アメリカンフットボール選手権において第3位。
 - ・柔道部が、第62回東海学生冬季大会にて優勝。
 - ・バレーボール部が、平成26年第137回東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会において2位。第67回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会において4位。
 - ・ラグビー部が、第65回全国地区対抗大学ラグビー大会において優勝。
 - ・居合道部が、第52回全国武徳祭において2位。
 - ・ライフル射撃部が、第32回中部学生ライフル伏射大会及び第43回中部学生ライフル射撃三姿勢大会において<10mARS60M>団体優勝、10mARS60M 個人優勝、加藤吉貴選手。<50m3×40M>個人優勝、芦原勝貴選手。<10mBRS40MW>個人優勝、宝泉千咲稀選手。
 - ・将棋部が、第10回富士通杯争奪全国大学対抗将棋大会団体戦において準優勝。第43回学生王将戦個人戦において4位 中田畑秀人選手。
 - ・エコノパワークラブが、本田宗一郎杯 Honda エコ マイレッジ チャレンジ 2014 第34回全国大会において2位。
- ・3年次個人面談率 (キャリアセンター)・・・(H20) 72.3%→(H21) 74.6%→(H22) 76.3%
→(H23) 83.0%→(H24) 79.8%→(H25) 87.1%→(H26) 85.4%
 - ・3年次グループ面談率 (キャリアセンター)・・・(H20) 74.8%→(H21) 77.2%→(H22) 80.3%
→(H23) 85.4%→(H24) 89.2%→(H25) 91.0%→(H26) 87.7%
 - ・就職率(学部)・・・(H19) 99.5%→(H20)99.5%→(H21)98.9%→(H22)99.0%→(H23) 99.0%
→(H24) 99.2%→(H25) 98.5%→(H26) 98.7%
 - ・実就職率 (学部)・・・(H19)90.3%→(H20)87.2%→(H21) 81.9%→(H22) 83.1%
→(H23)85.2%→(H24) 87.0%→(H25) 89.2%→(H26) 92.4%

(学生支援体制の充実)

- ・インターンシップ参加者数・・・(H19) 313 名
→ (H20) 362 名→(H21) 390 名→ (H22) 402 名
→ (H23) 317 名→ (H24) 330 名→ (H25) 450 名
→ (H26) 515 名



- ・就職情報交換会・・・(H20) 322 社、419 名
→ (H21) 250 社、354 名 → (H22) 280 社、408 名
→ (H23) 246 社、364 名→ (H24) 266 社、390 名
→ (H25) 260 社、391 名→ (H26) 289 社、416 名
- ・学内企業セミナー
・・・→ (H22) 753 社、学生 18,111 名参加→ (H23) 816 社、学生 19,817 名参加
→ (H24) 839 社、学生 16,109 名参加→ (H25) 911 社、学生 19,796 名参加
→ (H26) 840 社、学生 23,391 名参加

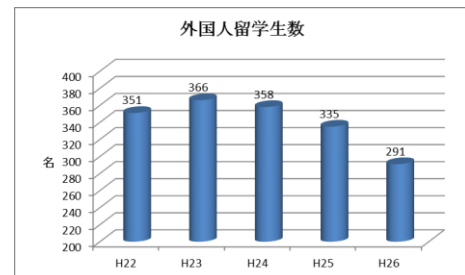
- ・資格試験合格者数 (一部)

単位：名

資格	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
司法書士	1	2	2	1
行政書士	1	5	5	2
宅地建物取引主任者	36	37	32	40
簿記 2 級	23	10	5	12

※それぞれの年度の 3 月 1 日現在

- ・学術交流協定新規件数
・・・(H23) 5 件→(H24) 8 件→(H25) 5 件
→(H26) 4 件
- ・留学生数・・・(H23) 366 名→(H24) 358 名
→(H25) 335 名→(H26) 291 名



- ・学生の国外への派遣人数・・・(H23) 363 名→(H24) 411 名→(H25) 432 名→(H26) 565 名
- ・海外研修引率者数・・・(H23) 66 名(H24) 68 名→(H25) 79 名→(H26) 81 名
- ・学生の国外からの受入れ人数・・・→ (H23) 385 名→ (H24) 375 名
→ (H25) 350 名→ (H26) 308 名
- ・学術交流協定件数・・・(H19) 44 件→(H20) 49 件→(H21) 52 件
→(H22) 55 件→(H23) 59 件→(H24) 65 件→(H25) 70 件→(H26) 74 件
- ・国外卒業生の把握・・・(H19) 39 名→(H20) 20 名→(H21) 70 名→(H22) 50 名
→(H23) 35 名→(H24) 48 名→(H25) 37 名→(H26) 29 名

※留学生のうち、帰国者で把握分

(卒業生及び父母との連携強化)**(基本目標)**

「開かれた大学を目指し、卒業生及び父母に信頼される大学ブランド力を確立する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 同窓生・父母へのケア体制の強化**

- 1) 活躍する卒業生との交流促進
- 2) 父母等に対する情報交流の強化

(成果)**1. 同窓生・父母へのケア体制の強化**

- 1) 活躍する卒業生との交流促進

〔2015年オール名城大会の実施－寄付者、卒業生約500名参加－〕

- ・名古屋観光ホテルにおいて 教育振興資金に1万円以上寄付いただいた方、スペシャルホームカミングデイ対象者(1964年3月～1966年3月卒業)、ホームカミングデイ対象者(1985年3月卒業)を対象に「2015年オール名城大会」を開催し、約500名が参加した。(2015年2月28日)

〔都市情報学部開設20周年記念行事の実施－記念講演会 約300名、記念式典 約200名参加－〕

- ・都市情報学部が開設20周年を迎え、2014年12月3日に、可児キャンパスにおいて記念講演会(約300名参加)、名古屋ガーデンパレスにおいて記念式典(約200名参加)を実施した。

〔卒業生教員と現役学生との交流会を実施－卒業生50名参加－〕

- ・2014年12月13日に、小学校、中学校、高等学校で教員として従事している卒業生と、現役学生とが交流を深める「卒業生教員交流会」を開催し、卒業生50名、在学生21名が参加した。

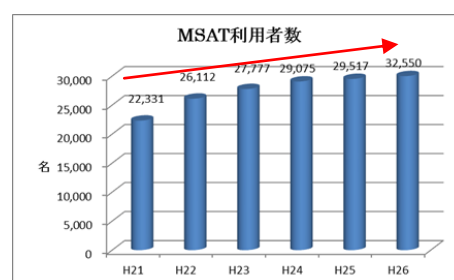
〔校友会等の団体との連携〕

- ・全国36支部において校友会支部総会及び愛知県内卒業生の会の総会(6回)が開催され、理事長、学長、学部長等が出席した。

〔名古屋駅前サテライト施設

(MSAT)－32,550名利用－〕

- ・名駅サテライト(MSAT)において、卒業生及び本学関係者を中心に、昨年度より3,033名多い32,550名の利用があった。



- 2) 父母等に対する情報交流の強化

〔各地区における父母との交流(各学部地区(父母)懇談会)〕

- ・地区懇談会を各学部において開催し、父母との交流を積極的に進めた。

〔地区別在学生交流会を開催－学生20名が出席－〕

- ・校友会主催の地区別在学生交流会が開催され、在学生20名が出席。(11月28日)

(卒業生及び父母との連携強化)**(成果指標)**

- ・ オール名城父母懇談会の父母出席者数・・・(H22) [福井] 43名 (総勢 116名)
 - (H23) [静岡] [滋賀] 93名 (総勢 246名)
 - (H24) [長野] [石川] 84名 (総勢 211名)
 - (H25) [静岡] 138名 (総勢 243名)
- ・ ホームカミングデイ参加人数 (卒業生)・・・(H20) 180名 → (H21)140名 → (H22) 167名
 - (H23) 190名 → (H24) 30周年 164名、スペシャル 166名
 - (H25) 30周年 155名、スペシャル 233名
- ・ オール名城大会参加人数・・・(H26) 寄付者、卒業生約 500名
- ・ MSAT利用者数(利用件数)・・・(H20) 7,634名 (524件) → (H21) 22,331名 (1,312件)
 - (H22) 26,112名 (1,498件) → (H23) 27,777名 (1,700件)
 - (H24) 29,075名 (1,825件) → (H25) 29,517名 (2,043件)
 - (H26) 32,550名 (2,065件)

(関連指標)

- ・ 大学通信への活躍する卒業生の掲載・・・(H20) 5名 →(H21) 4名 →(H22) 21名
 - (H23) 17名 → (H24) 0名 →(H25) 20名 →(H26) 37名
- ・ メールマガジン登録者数・・・(H20) 1,421名 →(H21) 1,599名 →(H22) 1,779名
 - (H23) 2,000名 →(H24) 2,099名 →(H25) 2,131名 →(H26) 1,146名

(産学官連携の推進)**(基本目標)**

「学術資産の形成と運用を組織的に推進し、社会に有意な産学官連携を促進する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 産学官連携の強化**

- 1) 産学官連携交流プログラムの強化
- 2) 知的財産創出の促進

(成果)**1. 産学官連携の強化**

- 1) 産学官連携交流プログラムの強化

[産学官連携ポリシーの策定]

- ・産学官連携による取り組みを、より総合的に推進することを目的とした「産学官連携ポリシー」を策定した。

[愛知中小企業家同友会と基本協定を締結]

- ・愛知中小企業家同友会と人材育成や新事業創出などを中心に連携・協力を深める産学地域連携基本協定を締結した。(8月5日)

[国土交通省中部地方整備局との連携・協力に関する協定]

- ・国土交通省中部地方整備局と地域防災力の向上、地域社会の発展への貢献等を目的とする連携・協力に関する協定を締結した。(6月11日)

[企業等向けの広報物の作成]

- ・産学連携を推進するため、ノーベル物理学賞を紹介したLEDパネルやチラシ、その他研究を紹介するパネルを作成し、展示会等で広報した。

[相談窓口対応 —約 450 件—]

- ・産学連携に係る相談を年間約 450 件受け、コーディネートし、共同研究に結び付けた。
(共同研究実施件数〔新規〕：35 件)

[科学技術交流財団との交流]

- ・「ニュートラル窒化研究会」について、第4回及び第6回をMSATで、第5回を天白キャンパスで窒化処理施設の見学を含めて行った。
- ・「産業化を見据えた機能性食品を考える研究会」について、MSATで計3回開催した。

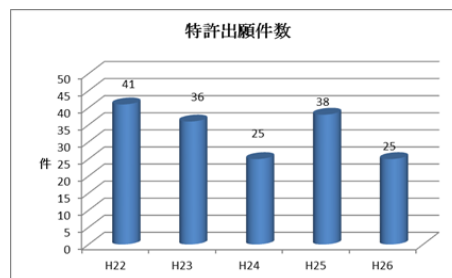
- 2) 知的財産創出の促進

[相談件数増加に向けた学外へのPR活動—展示会へ出展 15回]

- ・BIOtech2014、スマートコミュニティJapan、テクノフロンティア、イノベーションジャパン、中部エレクトロニクスショー、アグリビジネス創出フェア、nano tech 2015 など計15回の展示会に出展した。
- ・岡崎商工会議所、大府商工会議所、安城商工会議所、豊田商工会議所と連携し、交流会等に参画した。

[シーズの発掘活動の展開 —特許出願 25 件—]

- ・産学官担当者が教員のシーズ発掘作業を行い、特許に25件申請した。
- ・特許実施許諾件数は、国内3件となった。



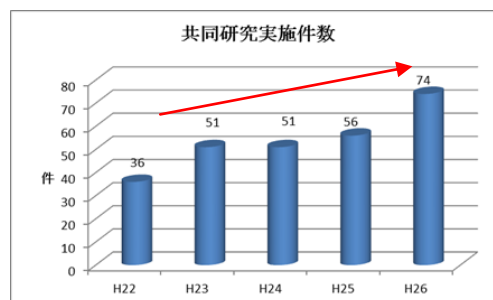
(産学官連携の推進)**[教員情報システムの活用促進]**

- ・教員情報システムを紹介するチラシ等で企業等に積極活用を促し、新規採用教員へ説明を行った。
- ・2014年度中に102,570件のアクセスがあった。

(成果指標)

- ・特許出願件数・・・(H20) 国内 27 件、国外 11 件 →(H21) 国内 19 件、国外 6 件
→(H22) 国内 34 件、国外 7 件 →(H23) 国内 25 件、国外 11 件
→(H24) 国内 15 件、国外 10 件→(H25) 国内 23 件、国外 15 件
→(H26) 国内 19 件、国外 6 件
- ・受託研究・共同研究受入件数・・・(H22) 57 件 (内新規 41 件) →(H23) 74 件 (内新規 54 件)
→(H24) 71 件 (内新規 45 件) →(H25) 76 件 (内新規 47 件) →(H26) 105 件 (内新規 65 件)
- [共同研究実施件数 (上記内数)・・・(H22) 36 件 (内新規 21 件) →(H23) 51 件 (内新規 34 件)
→(H24) 51 件 (内新規 26 件) →(H25) 56 件 (内新規 29 件) →(H26) 74 件 (内新規 41 件)]

- ・Meidas へのアクセス件数・・・(H20)265,647 件
→ (H21)328,632 件
→ (H22) 319,958 件
→ (H23) 31,440 件
- ・教員情報システムへのアクセス件数
・・・ (H26) 102,570 件

**(関連指標)**

- ・特許実施許諾件数・・・(H20) 国内 0 件、国外 0 件→(H21) 国内 0 件、国外 0 件
→(H22) 国内 0 件、国外 0 件→(H23) 国内 0 件、国外 0 件
→(H24) 国内 1 件、国外 0 件→(H25) 国内 2 件、国外 0 件
→(H26) 国内 3 件、国外 0 件
- ・大学発ベンチャー創出件数・・・(H24) 0 件→(H25) 0 件→(H26) 0 件
- ・卒業生関連企業との連携件数・・・(H24) 0 件→(H25) 0 件→(H26) 0 件
- ・展示会への出展・・・(H21) 8 回→(H22) 11 回→(H23) 11 回→(H24) 13 回→(H25) 15 回
→(H26) 15 回

(地域貢献)**(基本目標)**

「地域とともにある大学として、地域の多様なニーズに対応し、活性化につながるサービスを充実する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 名城サテライトによるサービスづくり**

1) サテライトプログラムの強化

2. 地域支援の充実

1) ボランティア活動の強化

2) 生涯学習支援の強化

(成果)**[名古屋市天白区と連携協力に関する協定を締結]**

・2014年12月18日に、名古屋市天白区と連携協力に関する協定を締結し、地域防災の強化、高齢化社会を迎える地域福祉の向上、農業など産業の振興などで連携を深めていくことになった。

[2020年五輪成功へ組織委と本学など552校が提携]

・2014年6月23日、早稲田大学において、本学を始めとする全国の大学・短大552校が、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、大会組織委員会と連携する協定を締結した。

1. 名城サテライトによるサービスづくり

1) サテライトプログラムの強化

[刈谷市との連携による連携講座の実施 -62名受講-]

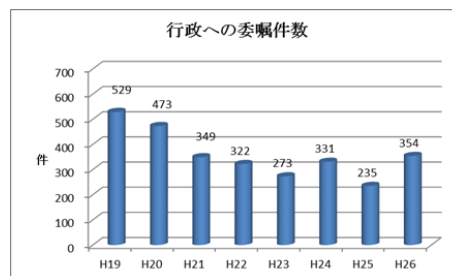
・生涯学習推進の観点から、刈谷市教育委員会との連携により、大学連携講座を前期1講座、後期1講座開講し、62名が受講した。

[名古屋駅前サテライト施設 (MSAT) において公開講座の実施 - 14 コマ]

・名駅サテライト (MSAT) において、年間14コマの公開講座を実施した。

2. 地域支援の充実**[行政に係る教職員の委嘱件数 - 354件-]**

・地域貢献の一環として、教職員が行政に係る委嘱件数は、354件となった。
(前年比119件増)

**[ノーベル賞受賞記念展示コーナーの開放]**

・2014年ノーベル物理学賞を受賞した理工学研究科 赤崎勇終身教授と元名城大学教授の名古屋大学 天野浩教授から受賞メダルレプリカが寄贈され、天白キャンパス附属図書館の正面エントランスホールに記念展示コーナーを設置し、一般公開を開始した。

(地域貢献)

1) ボランティア活動の強化

〔東日本大震災災害復興支援義援金活動 ー義援金総額 947,281 円ー〕

- ・学生食堂協力によるチャリティーメニュー
(義援金 1 食 20 円)
義援金額 182,360 円 9,118 食
- ・特定商品による売上寄付 92,055 円
- ・店舗募金箱設置による募金 4,632 円 ・その他義援金 668,234 円

〔東日本大震災災害復興支援ボランティア活動〕

- ・「東日本大震災復興支援プロジェクト～よみがえれ 大島！～」を宮城県気仙沼市大島地区において計 2 回実施。計 109 名（第 1 回平成 26 年 8 月 19 日～8 月 22 日、第 2 回 12 月 5 日～12 月 8 日）が参加した。
- ・岩手県陸前高田市の図書館再建を目的とする「陸前高田市図書館再建ゆめプロジェクト」に協力。図書の再販による義援金。平成 26 年度回収分は発送準備中。（参考：平成 25 年度発送分 第 1 回 435 冊、18,740 円、第 2 回 1,261 冊、20,948 円。）

〔ヤングボランティア「APP」への参加〕

- ・愛知県警察本部、他大学と連携した自主防犯活動団体であるヤングボランティア「APP」に参加、本学学生が代表を務め、学生が多数参加した。

〔天白区役所等との連携によるボランティアの展開〕

- ・天白区役所、愛知県天白警察署などと連携し、年末特別警戒パトロール、清掃活動等の各種行事に参加。「天白区民まつり」においてブース出展及び運営補助のボランティア活動を実施した。

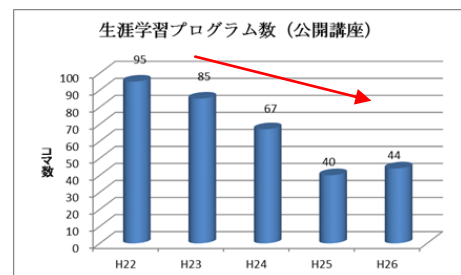
〔ボランティア協議会による各種行事の実施〕

- ・「ボランティア協議会」の活動（クリーンアップ大作戦、学内環境パトロール、地域防犯パトロール、大坪小学校でのふれあいあいさつ運動、災害復興ボランティア、社会福祉施設あしたの丘訪問ボランティア、中部盲導犬協会と連携した盲導犬ボランティア他）を積極的に支援した。
- ・2014 年 7 月 14 日に創立 10 周年を迎え、9 月に記念行事として式典や講演会、記念樹の植樹などを実施した。
- ・なごや生物多様性センターの各種イベントにボランティアとして学生が参加した。

2) 生涯学習支援の強化

〔各学部等における各種公開講座の実施〕

- ・各学部等において、各種公開講座、講演会、起業講座等を実施し、多くの市民等の参加者を得た。

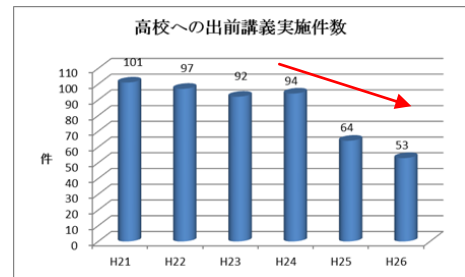


〔春日井市との連携事業〕

- ・農学部において、春日井市との連携講座において、32 名受講中、20 名が修了した。

(地域貢献)**[高校及び自治体への出前講義の実施 -61件-]**

- ・出前講義として、高校 53 件、自治体等 8 件の計 61 件を実施。

**[教員免許状更新講習の実施]**

- ・教員免許状更新講習を 8 月 20 日～22 日、8 月 25 日～26 日まで、9 講座 (56 コマ) を開講し、287 名が受講。

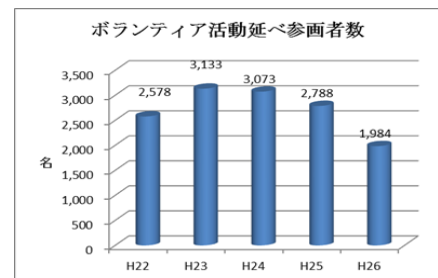
[科目等履修生に係る学費等の軽減措置]

- ・社会人の学び直しの観点から、本学の卒業生及び卒業見込みの者が科目等履修生として出願する場合の科目等履修料等や、科目等履修生の継続者に対する検定料を軽減した。

(成果指標)

- ・生涯学習プログラム数 (公開講座)・・・(H20) 77 コマ(内 15 が MSAT)
→(H21) 77 コマ(内 18 が MSAT) →(H22) 95 コマ(内 22 が MSAT)
→(H23) 85 コマ(内 22 が MSAT)→(H24) 67 コマ(内 13 が MSAT)
→(H25) 40 コマ(内 14 が MSAT)
→(H26) 44 コマ(内 14 が MSAT)

- ・ボランティア活動参加者数
・・・(H20) 2,396 名 → (H21) 2,614 名
→ (H22) 2,578 名→ (H23) 3,133 名
→ (H24) 3,073 名→ (H25) 2,788 名
→ (H26) 1,984 名



- ・行政 委嘱件数・・・ (H19) 529 件→(H20) 473 件→(H21) 349 件→ (H22) 322 件
→ (H23) 273 件→ (H24) 331 件→ (H25) 235 件→ (H26) 354 件
- ・名城大学 Day 参加者・・・ (H19) 4,976 名→(H20) 5,350 名→(H21) 4,300 名
→(H22) 4,800 名→(H23)中止→(H24) 5,500 名→(H25)廃止
- ・学外シンポジウム参加者・・・ (H19) 100 名→(H20) 220 名→(H21) 100 名→(H22) 110 名
→(H23～) 中止
- ・出前講義実施件数・・・(H21) 114 件 (内高校 101) →(H22) 115 件 (内高校 97)
→(H23) 110 件 (内高校 92) →(H24) 116 件 (内高校 94)
→(H25) 73 件 (内高校 64) →(H26) 61 件 (内高校 53)
- ・教員免許状更新講習参加者数・・・ (H22) 343 名→(H23) 344 名→(H24) 285 名→(H25) 217 名
→(H26) 287 名

(経営改革)**(基本目標)**

「総合学園化を目指した、戦略的かつ機動的な経営改革を持続する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 教育・研究組織の活性化**

- 1) 教育組織の改組・新設
- 2) 研究組織の改組・新設

2. 財政基盤の確立

- 1) 財源の多様化の促進

3. キャンパスの充実

- 1) 中長期計画に基づく再開発計画の推進
- 2) 長期のフレームワークプランの策定
- 3) 主体的学びを支援する環境整備

4. 組織マネジメント改革

- 1) 組織運営体制の整備
- 2) 危機管理体制の構築
- 3) ISO14001 の推進

(成果)**1. 教育・研究組織の活性化**

〔大学ガバナンスに関わる課題について共有 ―学内サミット報告書作成―〕

- ・大学運営会議の構成員を対象とする「2014年度学内サミット」を開催した。当日は、日本私立学校振興・共済事業団理事長 河田悌一氏を講師に招き、「大学ガバナンス改革について―大学のガバナンス改革について（審議まとめ）を受けて―」をテーマに、議論を深めた。（7月4日）
- ・議論の内容については、報告書としてとり纏め、学内で共有した。

〔日本体育大学と学校法人包括連携協定の締結〕

- ・日本体育大学と学校法人同士の立場から包括連携協定を締結し、両法人の強みを生かし、互いの経営資源、教育資源の活用を図ることとした。（6月20日）

1) 教育組織の改組・新設

〔経営学研究科修士課程及び法務研究科の定員変更〕

- ・2015年度から、経営学研究科修士課程の入学定員を30名から20名、法務研究科の入学定員を40名から25名への変更に向けて準備を進めた。

〔理工学研究科修士課程（交通科学専攻）の名称変更〕

- ・2015年度から、理工学研究科「交通科学専攻（修士課程）」を「交通機械工学専攻（修士課程）」へ名称変更を行うため、準備を進めた。

〔外国語学部の設置に向けた準備 ―2016年度開設予定―〕

- ・新学部（外国語学部 国際英語学科）の2016年度開設に向けて、準備を進めた。

〔法学部の再編 ―法学科1学科体制（2016年度）―〕

- ・2016年度からの法学部の再編（法学科1学科（入学定員400名）体制）に向けて準備を進めた。

(経営改革)**〔大学院大学・学校づくり研究科の募集停止 —2016年度から募集停止—〕**

- ・大学院大学・学校づくり研究科を2016年度から募集停止することとなった。

〔大学院理工学研究科修士（博士前期）の再編 —2017年度—〕

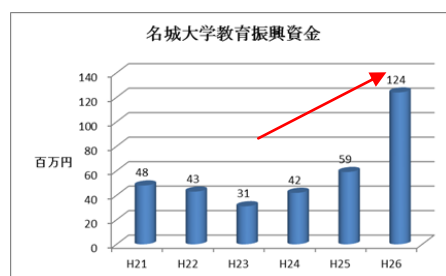
- ・2017年度からの「応用化学専攻」及び「メカトロニクス工学専攻」の新設、「機械システム工学専攻」から「機械工学専攻」、「建設システム工学専攻」から「社会基盤デザイン工学専攻」への名称変更に向けて構想を検討した。

2) 研究組織の改組・新設**〔総合研究所に研究センターを設置 —新規2センター設置—〕**

- ・総合研究所の下に、新たに「生物資源環境国際研究センター」、「プラズマバイオ科学技術研究センター」の2センターを設置し、全体で6つの研究センター体制となった。

2. 財政基盤の確立**1) 財源の多様化の促進****〔名城大学教育振興資金の受納 —約 124,464 千円—〕**

- ・「名城大学教育振興資金」として1,118件、約124,464千円の寄附金を受納し、昨年度比65,210千円の増額となった。
(開学90周年募金事業を含む。)

**〔開学90周年募金事業を開始 —目標10億円—〕**

- ・キャンパス再開発事業を目的とした「開学90周年募金事業」を開始し、2017年3月末までの目標金額を10億円と設定した。(2014年度募金額：81,168千円)
- ・名古屋観光ホテルにおいて開学90周年募金発起人会を開催し、企業関係者や本学法人役員を始め、評議員、名誉教授、校友会、大学運営会議関係者ら約150名が参加。(11月22日)

〔特別補助金の獲得 —253百万円—〕

- ・特別補助金253百万円を獲得し、法人全体の補助金は2,555百万円となった。
(法人全体昨年度比57百万円増)

〔学校法人会計基準の見直しに伴う計算書類等の変更〕

- ・学校法人会計基準の見直しに伴い、計算書類の変更等が必要となったため、2015年度予算から適用できるよう、関連規定等の見直しを進めた。

3. キャンパスの充実**1) 中長期計画に基づく再開発計画の推進****〔再開発計画全体像の見直し〕**

- ・NTT八事寮跡地の利用も含めた各キャンパスの再開発スケジュールの見直しを行った。

〔共通講義棟東の竣工〕

- ・共通講義棟東が2015年3月に竣工した。

〔薬学教育の充実 —八事新3号館[東]の竣工—〕

- ・薬学教育の充実に向けて、八事新3号館[東]が2015年3月に竣工した。

〔卒業生との交流の場の充実 —新校友会館(仮称)の建設に着工—〕

- ・卒業生との交流の場である新校友会館(仮称)の建設に着手した。

(経営改革)

[春日井キャンパスの基本構想の具体化－「新本館（仮称）」建設に係る基本計画及び実施設計に着手－]

- ・春日井キャンパスの基本構想の具体化に向けて、「新本館（仮称）」の建設に係る基本計画及び実施設計に着手した。

[スクールバス駐車場隣地（天白区植田西2丁目）の購入]

- ・スクールバス駐車場隣地（天白区植田西2丁目）の土地 149 m²を購入した。

2) 長期のフレームワークプランの策定

[ナゴヤドーム前キャンパス開設に係わる建物建設の着工]

- ・ナゴヤドーム前キャンパス開設に向けて、建物建設を含めたキャンパス整備に着手した。

3) 主体的学びを支援する環境整備

[ラーニングcommonsの設置]

- ・学生の自律的学習等を支援するため、共通講義棟北地下1階自習室内にラーニングcommonsを設置した。

4. 組織マネジメント改革

1) 組織運営体制の整備

[開学100周年に向けた新たな戦略プランの策定]

- ・開学100周年にあたる2026年度を目途とする「MS-26戦略プラン」を策定し、「生涯学びを楽しむ」という価値観の下、大学、附属高等学校それぞれのビジョンの実現に向けて取り組むこととなった。
- ・MS-26戦略プランの学内への理解浸透に向けて、筑波大学吉武博通教授を講師に招き、「第1回 MS-26シンポジウム」を開催した。(11月4日)

[学校教育法等の改正に伴うガバナンスの見直し]

- ・学校教育法等の改正に伴い、学長がリーダーシップを発揮できる環境整備を目的として、副学長の役割、教授会の位置付け等を明確にした。

[副経営本部長制度の導入]

- ・事務組織執行体制の強化に向けて、2015年度からの副経営本部長制度の導入に向けて準備を進めた。

[新キャンパス開設準備室の設置]

- ・円滑なキャンパス移転を進めるため、「新キャンパス開設準備室」を設置した。

[安全衛生・環境保全・防火防災業務に係る所掌部署の一元化]

- ・2014年6月から、総務部で分掌する「安全衛生」業務と、施設部で分掌する「環境」及び「防火・防災」業務を、総務部において一元管理することとなった。

[社会連携の窓口の明確化]

- ・2014年6月から、「社会連携センター（仮称）」の設置に先立ち、当分の間、本学の社会連携の窓口として、経営本部渉外部が担うことを明確にした。

[大学ポートレートの公開]

- ・日本私立学校振興・共済事業団が管理する「大学ポートレート」に、本学の基本情報及び取り組み等を掲載し、公開した。

[名城大学公式ウェブサイトのリニューアル]

- ・2014年7月に、大学の公式ウェブサイトのリニューアルを行った。

(経営改革)

2) 危機管理体制の構築

[海外派遣学生の緊急事故対策でシミュレーション訓練を実施 ー役員、教職員 78 名参加ー]

- ・天白キャンパスにおいて、特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会のスタッフを講師に招き、海外派遣学生の緊急事故対策でシミュレーション訓練を実施した。
(2015 年 1 月 28 日)

[文部科学省のガイドラインの見直しに伴う体制整備]

- ・研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン、研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインの見直しに伴い、関連規定の新規制定・一部改正を行い、体制を整備した。
- ・研究費の不正使用に関する告発窓口を監査室に加え、告発者保護の観点から学外の第三者機関にも置くこととした。

[教職員の安全と健康の確保 ー安全衛生委員会の活動ー]

- ・教職員の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成の促進のため、安全衛生委員会を通して職場巡回等を実施した。

[消防法に基づく教育・訓練の実施 ー述べ 515 名参加ー]

- ・消防法に基づく教育・訓練として、天白キャンパス 22 回 (延べ 244 名)、八事キャンパス 3 回 (延べ 13 名)、可児キャンパス 1 回 (230 名)、春日井キャンパス 1 回 (28 名) を実施し、計 515 名が参加。
また、中部地方整備局防災訓練参加及び研修として名古屋大学自衛消防訓練等に 5 回参加。

3) ISO14001 の推進

[私立大学環境保全協議会主催の研究会の開催]

- ・ISO14001 の認証取得継続は取りやめとなったものの、環境保全への取り組みとして、2015 年 3 月 5 日から 6 日に本学において、「私立大学環境保全協議会」の主催により、研究会が開催された。

[学生の企画によるキャンドルナイトを実施 ー青色 LED とキャンドルの点灯ー]

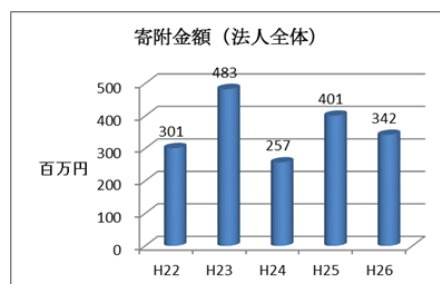
- ・学生の企画により、天白キャンパスに青色 LED とキャンドルを点灯し、省エネを訴えた。
(10 月 30 日)

(成果指標)

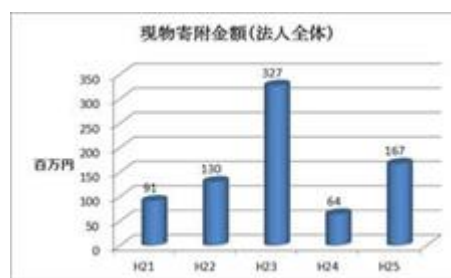
- ・戦略的大学新規連携件数・・・(H19) 1 件 (名古屋市立大学との「包括協定」)
→(H20) 1 件 (薬学部と名古屋市立大学等との「戦略的大学連携支援事業」) →(H21) 0 件→(H22) 0 件
→(H23) 0 件 →(H24) 1 件 (薬学部と名古屋大学との「研究科間覚書」) →(H25) 0 件 →(H26) 1 件
- ・教育振興資金 (開学 90 周年募金事業含む)
・・・ (H19) 182 件 【83,365 千円】 →(H20) 159 件 【43,570 千円】
→(H21) 145 件 【48,347 千円】 →(H22) 155 件 【42,689 千円】
→(H23) 184 件 【31,231 千円】 →(H24) 251 件 【42,036 千円】
→(H25) 362 件 【59,254 千円】
→(H26) 1,118 件 【124,464 千円】
- ・開学 90 周年募金事業・・・(H26) 867 件 【81,168 千円】

(経営改革)

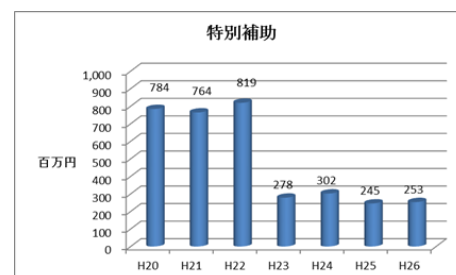
- ・ 寄附金額・・・(H19) 286,580 千円
 →(H20) 226,923 千円 →(H21) 271,091 千円
 →(H22) 300,580 千円 →(H23) 482,980 千円
 →(H24) 256,625 千円 →(H25) 400,713 千円
 →(H26) 342,280 千円



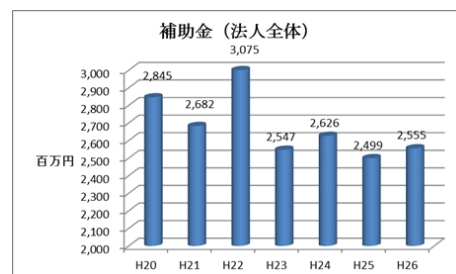
- ・ 寄附金の内の現物寄附
 ・・・(H20) 47,449 千円
 →(H21) 91,421 千円 →(H22) 130,496 千円
 →(H23) 326,531 千円 →(H24) 63,512 千円
 →(H25) 166,776 千円 →(H26) 89,498 千円



- ・ 特別補助金 (過年度調整除く)
 ・・・(H19) 698 百万円
 →(H20) 784 百万円 →(H21) 764 百万円
 →(H22) 819 百万円 →(H23) 278 百万円
 →(H24) 302 百万円 →(H25) 245 百万円
 →(H26) 253 百万円



- ・ 補助金・・・(H20) 2,845,135 千円
 (国庫 2,051,859 千円、地方 793,276 千円)
 →(H21) 2,681,680 千円
 (国庫 1,857,883 千円、地方 823,797 千円)
 →(H22) 3,074,576 千円
 (国庫 2,329,051 千円、地方 745,525 千円)
 →(H23) 2,547,076 千円 (国庫 1,812,832 千円、
 地方 732,244 千円、
 学術研究振興資金 2,000 千円)
 →(H24) 2,625,541 千円
 (国庫 1,890,783 千円、地方 734,758 千円)
 →(H25) 2,498,734 千円 (国庫 1,770,948 千円、地方 727,786 千円)
 →(H26) 2,555,340 千円 (国庫 1,813,939 千円、地方 740,901 千円、
 学術研究振興資金 500 千円)



- ・ ISO14001 内部監査員数・・・(H21) 140 名 →(H22) 162 名 →(H23) 172 名 →(H24) 195 名
 →(H25) 207 名 →(H26) 205 名

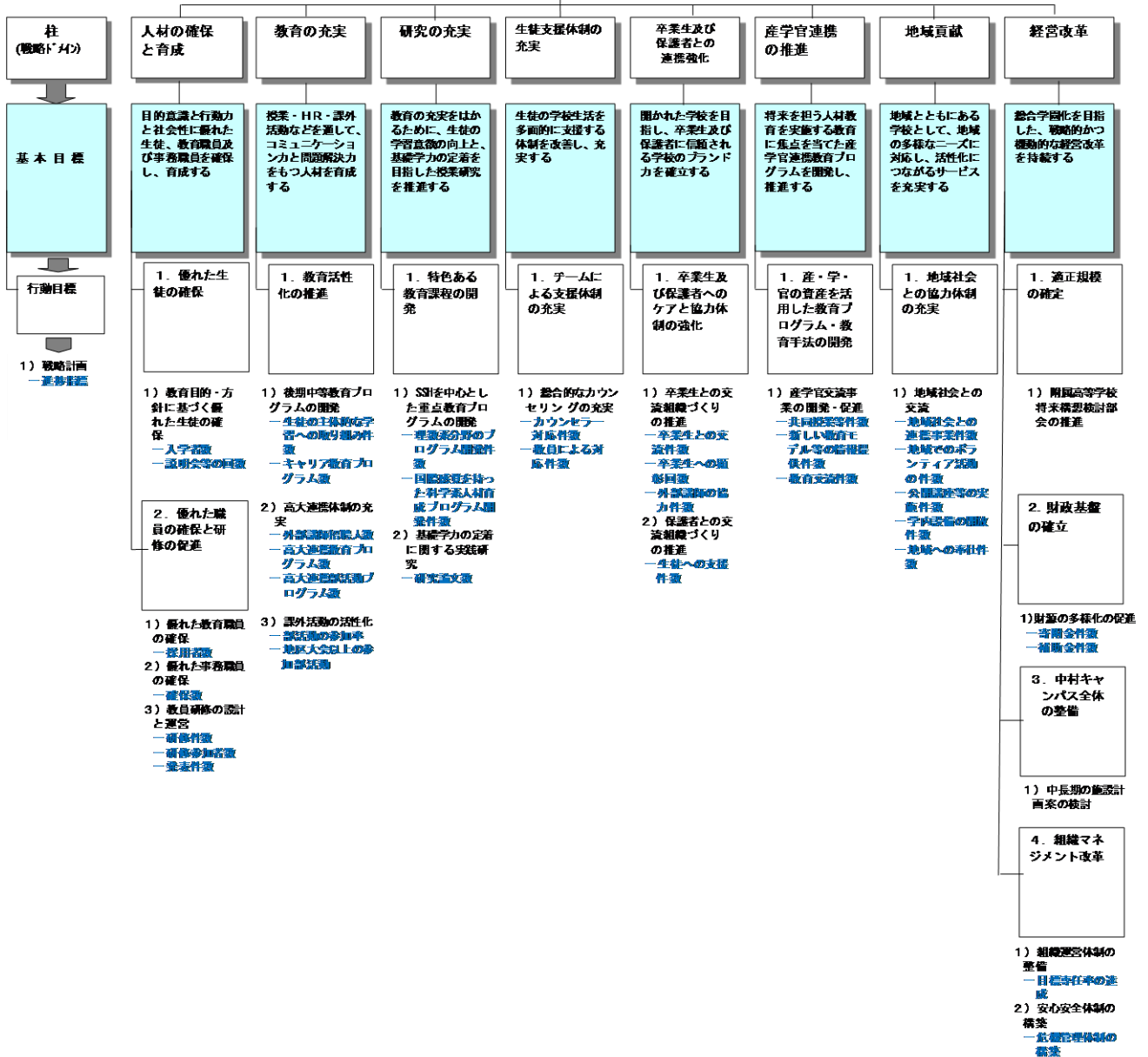
【附属高等学校】

MS-15 (2014 年度～) 戦略プラン

「名城育ちの達人を社会に送り出す」

【長期ビジョン】
生徒の夢を育む愛知県下№1の私立高等学校を実現する

【中期ビジョン】
満足度№1を目指し、「知・徳・体」の調和した生徒を育成する



(人材の確保と育成)**(基本目標)**

「目的意識と行動力と社会性に優れた生徒、教育職員及び事務職員を確保し、育成する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 優れた生徒の確保**

- 1) 教育目的・方針に基づく優れた生徒の確保

2. 優れた職員の確保と研修の促進

- 1) 優れた教育職員の確保
2) 優れた事務職員の確保
3) 教員研修の設計と運営

(成果)**1. 優れた生徒の確保**

- 1) 教育目的・方針に基づく優れた生徒の確保

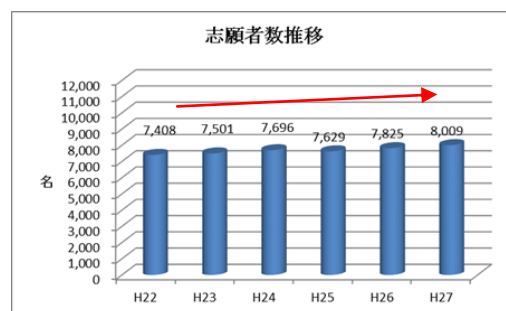
〔国際クラスが受験者数増〕

- ・2015年度推薦入試で、国際クラス38名、SSクラス31名の成績優秀な生徒を確保できた。特に、国際クラスは初めて推薦入試のみでほぼ定員を充足できた。

〔志願者数13年連続愛知県下No.1

—志願者数 8,009名—

- ・公開見学会(2回)の他に、17校の中学校で進学説明会を実施した。
- ・中学生の本校への訪問回数も増加し、公開見学会の来校者は4,448名(過去最高)となった。
- ・2015年度入試志願者は、8,009名となった。

**2. 優れた職員の確保と研修の促進**

- 1) 優れた教育職員の確保

〔新規教諭を採用 —2名の教諭採用(2014年度)—

- ・2014年度は、専任教諭2名を新規に採用し、専任率は85.7%となった。2015年度に向けて、専任教諭3名を採用した。

- 2) 優れた事務職員の確保

〔事務職員増員要請〕

- ・法人に対し、専任事務職員の増員を継続的に申し出た。

- 3) 教員研修の設計と運営

〔研修の充実 —延べ265名参加—

- ・教員全員を対象とした教員研修会を1回実施し、85名が参加した。
- ・教育開発部を中心とした希望者による教員研修会を5回実施し、参加者は延べ180名であった。

〔校外研修への積極的派遣 —派遣89名—

- ・校外研修の充実を図り、89名を派遣した。

(人材の確保と育成)**(成果指標)**

- ・ 志願者数・・・(H20) 6,878 名 → (H21) 6,738 名 → (H22) 7,408 名
→(H23) 7,501 名 → (H24) 7,696 名 → (H25) 7,629 名 → (H26) 7,825 名
→ (H27) 8,009 名
- ・ 教育職員採用者数・・・(H20) 5 名 → (H21) 5 名 → (H22) 5 名
→(H23) 4 名 →(H24) 4 名 →(H25) 1 名 → (H26) 2 名
- ・ 入学者数・・・(H20) 691 名 → (H21) 573 名 → (H22) 684 名 → (H23) 665 名
→ (H24) 592 名 → (H25) 627 名 → (H26) 668 名 → (H27) 640 名
- ・ 入試説明会 (全校)・・・(H19) 2 回 → (H20) 2 回、MSAT にて 2 回の計 4 回
→ (H21) 2 回、MSAT にて 3 回の計 5 回
→ (H22) 2 回、MSAT にて 2 回の計 4 回
その他、中学校での説明会 12 回、塾等の説明会 12 回
→ (H23) 2 回、MSAT にて 2 回の計 4 回
その他、中学校での説明会 6 回、塾等の説明会 15 回
→ (H24) 2 回、MSAT にて 0 回の計 2 回
その他、中学校での説明会 12 回、塾等の説明会 12 回
→ (H25) 附属高校を会場として 2 回、
その他、中学校での説明会 16 回、塾等の説明会 8 回
→ (H26) 附属高校を会場として 2 回、
その他、中学校での説明会 17 回、塾等の説明会 8 回
- ・ 校外研修派遣数・・・(H23) 28 名 → (H24) 64 名 → (H25) 87 名 → (H26) 89 名

(関連指標)

- ・ 県下中学 3 年生の生徒数に対する志願者数の割合
・・・(H20) 9.9% → (H21) 9.7% → (H22) 10.2% → (H23) 10.6 %
→ (H24) 10.6% → (H25) 10.7% → (H26) 10.9%
- ・ 事務職員確保数・・・(H20) 8 名 → (H21) 8 名 → (H22) 9 名
→ (H23) 9 名 → (H24) 8 名 → (H25) 14 名 → (H26) 12 名

(教育の充実)**(基本目標)**

「授業・HR・課外活動などを通して、コミュニケーション力と問題解決力をもつ人材を育成する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 教育活性化の推進**

- 1) 後期中等教育プログラムの開発
- 2) 高大連携体制の充実
- 3) 課外活動の活性化

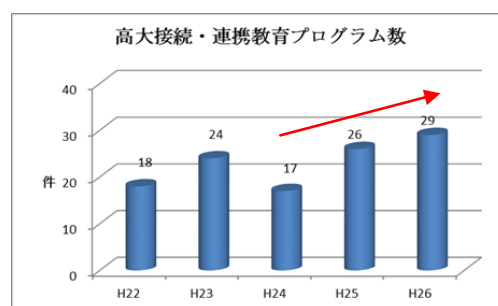
(成果)**1. 教育活性化の推進**

- 1) 後期中等教育プログラムの開発

〔スーパーグローバルハイスクール

(SGH) 事業の取り組み〕

- ・将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的に、文部科学省が指定する「スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業」が2014年度より展開された。



〔新しい教育プログラムの開発〕

- ・一般進学理系クラス (2年) では、第I期SSHにおいて実践した学校設定科目の各科目のエッセンスを取り入れて融合した科目「スーパーサイエンスII」を、名城大学理工学部・農学部・薬学部と協同して行った。

〔文章力向上に向けた取組〕

- ・普通科・総合学科において、「税の作文」を夏休み課題とし、国税局の作文コンクールに応募し、1年総合学科の生徒が「名古屋国税局長賞」を受賞した。
- ・普通科1年一般進学クラスにおいて、中日新聞主催の新聞切り抜きコンテストに向けた新聞スクラップ指導を行った。結果、入選1名、佳作1名、努力賞7名の生徒が受賞した。

〔保護者への授業公開 -372名の保護者参加-〕

- ・6月19日と20日に保護者を対象にして 全学年全クラスで授業を公開し、合わせて372名の参加者があった。

〔2015年度大学入学試験において、国公立大学に46名の生徒が合格〕

- ・2015年度大学入学試験において、46名の生徒(特進32名、一般14名、総合0名)が国公立大学に合格した。

〔1年全体のキャリア教育の実施 -1件-〕

- ・普通科、総合学科の1年学年団で企画した。
生徒の希望を重視し、19の大学・短大、10の専門学校から外部講師を招へいした。

〔2年全体のキャリア教育の実施 -1件-〕

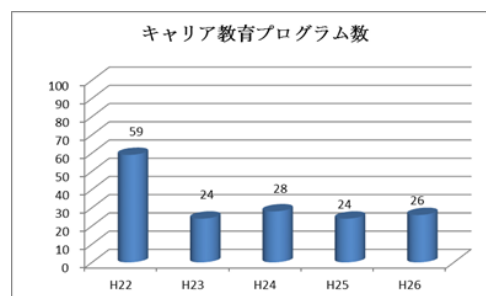
- ・夏休み課題としてオープンキャンパス (名城大学に限らず幅広い大学を指示) に参加させ、レポートを提出させた。

(教育の充実)**[3年全体のキャリア教育の実施 -1件-]**

- ・夏休みに、普通科、総合学科合同の講座制補習を実施した。

[普通科におけるキャリア教育**-キャリア教育プログラム数 13件-]**

- ・1年一般進学クラスにおいて、2学期にベネッセの講師を招へいして、「模擬試験の活用法」の講話を行った。
- ・1年一般進学クラスにおいて、SS I 講座の中で「天才とは①②」「プラス思考のススメ」など進路実現のための講話を行った。
- ・1年特進クラスにおいて、東進ハイスクールの人気講師 今井宏氏による英語の特別講座を行った。併せて、大学受験に向けての心構えや3年間の学習計画についての指導を行った。
- ・1年特進クラスにおいて、国立大学の教員を招聘して国公立大学の現状と題して生徒・保護者向けの講演を行った。
- ・1年特進クラスにおいて、産業技術記念館に出向き、「研究と創造の精神」「モノづくり」の大切さを学ぶための校外学習を行った。
- ・1年生全体で、株式会社フロムページと連携して「夢ナビプログラム」を活用したキャリアガイダンスを行った。
- ・2年一般進学クラスにおいて、「国公立大学希望者ガイダンス」を実施し、それに関連して国公立大学進学対策講座を実施した。
- ・2年一般進学クラスにおいて、能率手帳を利用した生活・学習の振り返り指導を行った。
- ・2年特進クラスにおいて、基礎学力の向上・不得意分野の克服のため、成績下位者に対して、学研教材「My GAK」を導入した。
- ・2年特進クラスにおいて、卒業生2名を招聘して、進路実現のための体験談の講話を行った。
- ・3年一般進学全体で、国公立大学出願に向けたガイダンスを行った。
- ・3年文系において、リスニングを中心とした英語力の強化を図るため、e-learning 教材を引き続き導入した。
- ・2年特進クラスにおいて、春休みに予備校講師を招へいして、センター試験に向けてのモチベーションアップ講座を国語、英語において行った。

**[総合学科におけるキャリア教育 -キャリア教育プログラム数 10件-]**

- ・1年の「産業社会と人間」の授業で、『自分を知る』、『進路と職業』、『社会と自分』などの体験を通して学ぶキャリア教育プログラムを実施した。
- ・人間コミュニケーション系列では、地域の保育園、介護老人保健施設等での体験型授業によるキャリア教育を実施した。

2) 高大連携体制の充実

[普通科における特色ある教育プログラムの実施]

- ・名城大学 竹内英人准教授による数学特別講座「数学竹内塾」を年間30回実施した。
- ・名古屋大学 四方義啓名誉教授による「四方数学サロン」を年間10回実施した。
- ・2年生特進クラスを中心に、予備校講師による英語・国語の特別講座を実施した。
- ・3年生特進クラスを中心に、予備校講師による夏季講座「センター英語」、「センター現代文」、「センター古典」を実施した。

(教育の充実)**〔国際クラスにおける特色ある教育プログラムの実施〕**

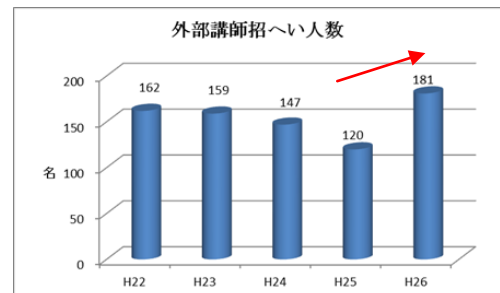
- ・英語教育を軸にし、名城大学のネイティブ・スピーカーによるサマーキャンプを名城大学で行った。
- ・南山大学との連携、課題研究等のプログラムを実施した。
- ・ボランティア活動として、Kiva（マイクロファイナンスの国際NPO）の日本語翻訳やESD教育の一環としてイオン共同プロジェクトに参加した。また、カンボジア派遣青年海外協力隊との共同プロジェクトとして合唱活動を行った。
- ・JICA、国際センター、愛知県等が主催するコンクールやワークショップへの参加を行った。
- ・旺文社「全国学芸サイエンスコンクール」赤尾好夫記念賞入選
- ・JICA エッセイコンテスト 佳作
- ・東海学園大学英語プレゼンコンクール 優秀賞 学部長賞
- ・大阪大学国際公共政策学会本選出場
- ・ユネスコ主催国際ユース作文コンテスト
- ・クエストエデュケーション企業探究コース全国大会出場
- ・交流事業において、イタリアからの短期留学生（青山小夜ディーノ）を受け入れた。
- ・交流事業において、東南アジア青年の船を受け入れた。
- ・交流事業において、台湾の新高級中学の生徒と交流した。
- ・交流事業において、オーストラリアのフレッシュウォータークリスチャンカレッジの生徒と交流した。

〔総合学科における特色ある教育プログラムの実施〕

- ・数理系列で名古屋大学の教員による講義及び「核融合研究所」の施設見学会を実施した。
- ・1年生全員を対象に、日本福祉大学との連携において模擬授業を実施した。

〔外部講師の招へいによる特色ある教育プログラムの実施—外部講師 181 名招へい—〕

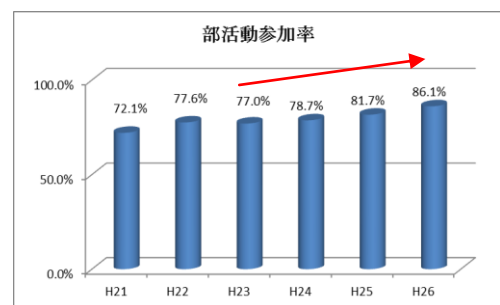
- ・特色ある教育として、外部講師をSSH69名、SGH34名、その他78名をそれぞれ招へいした。



3) 課外活動の活性化

〔課外活動での目覚ましい成績**—全国大会出場 9部—〕**

- ・地区大会以上の出場部活動は、10部となり、その内、全国大会出場部活動は9部となった。
- ・陸上部、メカトロ部、ダンス部、体操部の4部が国際大会に出場した。そのうち、陸上部が世界ユース・オリンピック陸上競技やり投げで銅メダルを獲得した。また、ダンス部が世界選手権大会 Senior All Star Pon Large 部門で4位入賞を果たした。体操部は、ドイツ国際ジュニア大会で個人総合2位、種目別つり輪優勝、鉄棒優勝という好結果を残した。

**〔部活動参加率の増加 —参加率 86.1%—〕**

- ・部活動の参加率が昨年度の81.7%から4.4ポイント上昇した。

(教育の充実)**(成果指標)**

- ・保護者の授業参加人数・・・(H19) 167名 →(H20) 160名 →(H21) 215名
→(H22) 365名 →(H23) 377名 →(H24) 282名→(H25) 302名
→(H26) 372名
- ・外部講師招へい人数・・・(H19) 37名 →(H20) 23名 →(H21) 74名
→(H22) 162名 →(H23) 159名→(H24) 147名 →(H25) 120名
→(H26) 181名
- ・部活動の参加率・・・(H19) 73.5% →(H20) 73.2% →(H21) 72.1%
→(H22) 77.6% →(H23) 77.0%→(H24) 78.7%→(H25) 81.7%
→(H26) 86.1%
- ・地区大会以上の出場・・・(H20)11部→(H21)12部→(H22)13部→(H23) 12部→(H24) 10部
→(H25) 10部 →(H26) 10部
- ・国公立大学合格者数(特進クラス)・・・(H19) 29名 →(H20) 37名 →(H21) 56名
→(H22) 46名 →(H23) 41名→(H24) 59名→(H25) 53名
→(H26) 32名
- ・国公立大学合格者数(一般進学クラス)・・・(H19) 7名(内文系クラス3名)
→(H20) 8名(内文系クラス1名) →(H21) 4名(内文系クラス1名)
→(H22)8名(内文系クラス3名) →(H23)17名(内文系クラス4名)
→(H24)17名(内文系クラス7名) →(H25)19名(内文系クラス2名)
→(H26)14名(内文系クラス5名)
- ・国公立大学合格者数(総合学科)・・・(H19) 1名(一般) →(H20) なし →(H21) なし
→(H22)3名 →(H23) なし →(H24)なし →(H25) なし
→(H26) なし
- ・高大接続・連携教育プログラム数・・・(H19) 13 →(H20) 12 →(H21) 19
→(H22) 18 →(H23) 24 →(H24) 17→(H25) 26
→(H26) 29
- ・キャリア教育プログラム数・・・(H19) [普] 2、[総合] 6 →(H20) [普] 4、[総合] 19
→(H21) [普] 9、[総合] 24→(H22) [普] 3 [総合] 56 →(H23) [普] 5、[総合] 19
→(H24) [1年全体] 2、[2年全体] 1、[3年全体] 1、[普] 8、[総合] 16
→(H25) [1年全体] 1、[2年全体] 1、[3年全体] 1、[普] 11、[総合] 10
→(H26) [1年全体] 1、[2年全体] 1、[3年全体] 1、[普] 13、[総合] 10

(研究の充実)**(基本目標)**

「教育の充実をはかるために、生徒の学習意欲の向上と、基礎学力の定着を目指した授業研究を推進する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 特色ある教育課程の開発**

- 1) SSH を中心とした重点教育プログラムの開発
- 2) 基礎学力の定着に関する実践研究

(成果)**1. 特色ある教育課程の開発**

- 1) SSH を中心とした重点教育プログラムの開発

〔SSH における課題研究等の実施〕

- ・課題研究受講生による中間発表会（6月）、最終発表会（1月）を実施し、全校生徒研究発表会に繋げた。また、「愛知県学生科学賞」で優秀賞、電気学会高校生懸賞論文コンテストで優秀論文賞を受賞した。

〔研究所訪問研修の実施〕

- ・7月にスーパーサイエンスクラスの2年生が、核融合研究所等の研究所を訪問した。また、8月にスーパーサイエンスクラス1年を対象に、2泊3日で行くば市の各種研究所や東京大学の研究室及びSSH生徒研究発表会の見学会を実施した。2月には、スーパーサイエンスクラス2年生を対象に、「知の拠点」の見学会を実施した。

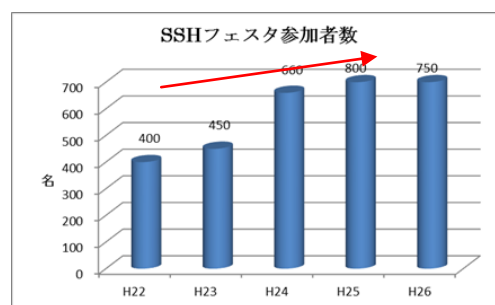
〔国際バカロレアの研究〕

- ・国際バカロレアに関する調査研究を行った。IBOが主催する教員研修に2名が参加した。

〔SSH 東海地区フェスタの実施

—約750名参加—

- ・SSH事業に係り、「スーパーサイエンスハイスクール東海地区フェスタ2014」を7月19日に天白キャンパスにおいて開催し、SSH指定校21校が集い、研究発表等を実施した。

**〔国際感覚を持った人材育成プログラム〕**

- ・1月にSGH高大連携講座で、名城大学アジア研究センターの明石康名誉センター長を招へいた。
- ・SGH事業として、10月に国際クラス1年を対象にインドネシア研修、1月にSGサロン受講者の希望生徒を対象にアメリカ研修を実施した。

- 2) 基礎学力の定着に関する実践研究

〔英語多読プログラムの実施〕

- ・国際クラス、SSクラスを対象とした英語多読プログラムを実施した。

〔研究成果の公表 —7件—〕

- ・研究論文を7件公表した。

(研究の充実)**(成果指標)**

- ・ SSH フェスタ参加者数・・・(H19) 400 名 → (H20) 500 名 → (H21) 400 名
→ (H22) 400 名 → (H23) 450 名 → (H24) 660 名
→ (H25) 800 名 → (H26) 750 名
- ・ SSH ウェブサイトアクセス件数・・・(H21) 1,920 件 → (H22) 20,000 件
→ (H23) 169,999 件 → (H24) 420,874 件
→ (H25) 295,484 件 → (H26) 269,479 件
- ・ 理数系分野のプログラム開発件数・・・(H19) 7 件 → (H20) 8 件 → (H21) 6 件
→ (H22) 6 件 → (H23) 7 件 → (H24) 7 件
→ (H25) 7 件 → (H26) 7 件
- ・ 国際感覚を持った科学系人材育成プログラム開発件数・・・(H19) 2 件 → (H20) 2 件
→ (H21) 0 件 → (H22) 0 件 → (H23) 1 件 → (H24) 1 件
→ (H25) 1 件 → (H26) 4 件
- ・ 研究論文数・・・(H23) 4 件 → (H24) 5 件 → (H25) 6 件 → (H26) 7 件

(生徒支援体制の充実)**(基本目標)**

「生徒の学校生活を多面的に支援する体制を改善し、充実する。」

(行動目標・戦略計画)**1. チームによる支援体制の充実**

1) 総合的なカウンセリングの充実

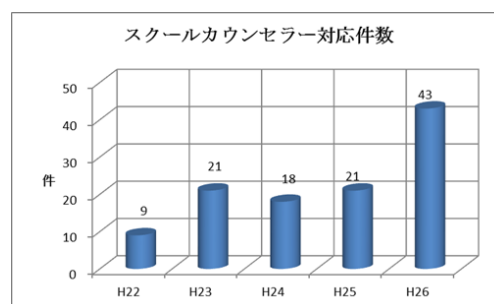
(成果)**1. チームによる支援体制の充実**

1) 総合的なカウンセリングの充実

[チームカウンセリングの構築]

・カウンセリングの充実のために、2014年度はスクールカウンセラーを2名に増員し、週2回相談できる体制を整えた。その結果、相談機会が増えたことで利用者も増え、昨年の2倍の相談件数となった。特に、1年生の相談件数が多かった。

・スクールカウンセラーの増員は、教員とカウンセラーとの情報共有の機会を多く作ることに繋がった。また、このことで保健室・生徒指導・担任等の情報共有がより活発に行われ、多面的な支援体制づくりを充実させることができた。

**(成果指標)**

- ・カウンセラー対応件数・・・(H19) 28件→(H20) 19件→(H21) 14件
→ (H22) 9件 → (H23) 21件→ (H24) 18件
→ (H25) 21件 → (H26) 43件
- ・保健室による対応件数・・・(H22) 44件 → (H23) 25件 → (H24) 35件
→ (H25) 34件 → (H26) 55件
- ・教員による対応件数・・・(H21) 82件(普通科 60件、総合学科 22件)
→ (H22) 42件(普通科 35件、総合学科 7件)
→ (H23) 25件(普通科 24件、総合学科 1件)
→ (H24) 39件(普通科 34件、総合学科 5件)
→ (H25) 34件(普通科 33件、総合学科 1件)
→ (H26) 57件(普通科 51件、総合学科 6件)

(卒業生及び保護者との連携強化)**(基本目標)**

「開かれた学校を目指し、卒業生及び保護者に信頼される学校のブランド力を確立する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 卒業生及び保護者へのケアと協力体制の強化**

- 1) 卒業生との交流組織づくりの推進
- 2) 保護者との交流組織づくりの推進

(成果)**1. 卒業生及び保護者へのケアと協力体制の強化**

- 1) 卒業生との交流組織づくりの推進

〔同窓会執行部会の実施〕

・1月に執行部会を実施し、管理職との意見交換も行い課題を共有できた。

〔同窓会の新たな生徒支援体制の構築〕

・文化祭において、開学90周年に向けた展示会を実施した。

- 2) 保護者との交流組織づくりの推進

〔PTA 常任委員会等の実施〕

・年間6回の常任委員会を実施し、校長、副校長、教頭、事務長、運営委員において、意見交換を行った。

〔PTA との懇親会の実施〕

・年1回の懇親会を実施し、保護者と教職員の交流を図った。

(成果指標)

- ・外部講師の協力件数・・・ (H19) 1件 (卒業生からの講話) → (H20) 1件 → (H21) 0件
→ (H22) 0件 → (H23) 0件 → (H24) 0件
→ (H25) 0件 → (H26) 3件
- ・卒業生との交流件数・・・ (H21) 11件 (普通科7件、総合学科4件)
→ (H22) 5件 (普通科3件、総合学科2件)
→ (H23) 1件 (普通科0件、総合学科1件)
→ (H24) 2件 (普通科1件、総合学科1件)
→ (H25) 6件 (普通科3件、総合学科3件)
→ (H26) 2件 (普通科1件、総合学科1件)
- ・卒業生への顕彰回数・・・ (H21) 0件 → (H22) 0件 → (H23) 0件 → (H24) 0件
→ (H25) 0件 → (H26) 0件
- ・生徒への支援件数 (PTA)・・・ (H19) 2件 (部活動への支援、生徒会への支援)
→ (H20) 2件 → (H21) 11件 → (H22) 10件
→ (H23) 17件 → (H24) 12件 → (H25) 13件 → (H26) 15件

(産学官連携の推進)**(基本目標)**

「将来を担う人材教育を実施する教育に焦点を当てた産学官連携教育プログラムを開発し、推進する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 産・学・官の資産を活用した教育プログラム・教育手法の開発**

- 1) 産学官交流事業の開発・促進

(成果)**1. 産・学・官の資産を活用した教育プログラム・教育手法の開発**

- 1) 産学官交流事業の開発・促進

〔SSH 東海地区フェスタにおける永井科学技術財団との連携〕

・名城大学、JST による支援に加え、永井科学技術財団の支援を受けて実施した。

(成果指標)

・共同授業等件数・・・(H21) 1 件 →(H22) 1 件 →(H23) 1 件→(H24) 1 件→(H25) 1 件
→(H26) 1 件

・新しい教育モデル等の情報提供数・・・(H21) 0 件 →(H22) 0 件 →(H23) 0 件
→(H24) 0 件→(H25) 0 件 →(H26) 0 件

・教育交流件数・・・ (H19) 5 件 → (H20) 3 件 → (H21) 0 件
→ (H22) 0 件 → (H23) 0 件 → (H24) 0 件 → (H25) 0 件
→(H26) 0 件

(地域貢献)**(基本目標)**

「地域とともにある学校として、地域の多様なニーズに対応し、活性化につながるサービスを充実する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 地域社会との協力体制の充実**

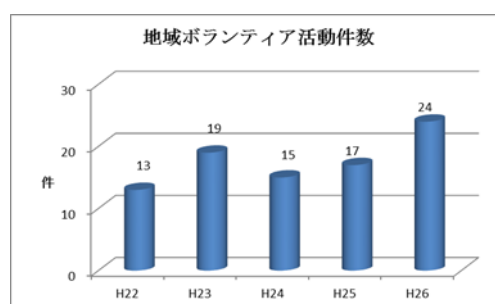
1) 地域社会との交流

(成果)**1. 地域社会との協力体制の充実**

1) 地域社会との交流

[地域との交流プログラムの実施]

- ・年間を通して、学校全体で校外清掃を実施した。
- ・22年間に亘り、男子バレー部員が新幹線沿線の清掃活動を毎週実施したことに対し、JR東海より表彰を受けた。
- ・総合学科の人間コミュニケーション系列で「人間関係」の授業を基礎に①中村保育園②白社苑③児童館での活動を実施した。
- ・ダンス部と吹奏楽部が、中村警察署青少年非行防止キャンペーンにて招待発表を行った。
- ・メカトロ部が、中村区の幼稚園・保育園において、ロボットによる演奏会を実施した。
- ・自然科学部が、児童館等で小学生対象の「科学あそび」を実施した。
- ・自然科学部が、庄内川の清掃活動を3回実施した。
- ・地域の広域避難所になっている附属高等学校で、高校教職員、地域住民、新富町保育園が協力し避難訓練を実施した。

**(成果指標)**

- ・地域社会との連携事業件数・・・(H19) 6件 →(H20) 7件 →(H21) 9件
→(H22) 21件 →(H23) 17件→(H24) 23件→(H25) 19件
→(H26) 21件
- ・地域でのボランティア活動の件数・・・(H19) 2件 →(H20) 3件→(H21) 15件
→(H22) 13件 →(H23) 19件→(H24) 15件→(H25) 17件
→(H26) 24件
- ・地域への奉仕件数・・・(H19) 2件 →(H20) 3件 →(H21) 36件→(H22) 36件
→(H23) 36件→(H24) 36件→(H25) 36件→(H26) 36件
- ・公開講座等の実施件数・・・(H21) 3件→(H22) 2件→(H23) 4件→(H24) 4件→(H25) 4件
→(H26) 11件
- ・学内施設の開放（中学生の訪問）・・・(H21) 25校延べ 231名 → (H22) 21校延べ 260名
→ (H23) 37校延べ 342名→ (H24) 32校延べ 322名
→ (H25) 12校延べ 160名 → (H26) 33校延べ 350名

(経営改革)**(基本目標)**

「総合学園化を目指した、戦略的かつ機動的な経営改革を持続する。」

(行動目標・戦略計画)**1. 適正規模の確定**

- 1) 附属高等学校将来構想検討部会の推進

2. 財政基盤の確立

- 1) 財源の多様化の促進

3. 中村キャンパス全体の整備

- 1) 中長期の施設計画案の検討

4. 組織マネジメント改革

- 1) 組織運営体制の整備
- 2) 安心安全体制の構築

(成果)**1. 適正規模の確定**

- 1) 附属高等学校将来構想検討部会の推進

[適正規模の確定と運営ワーキンググループの設置]

- ・附属高等学校に設置した「適正規模の確定と運営ワーキンググループ」において議論し、2026年までの適正規模を1学年640名とした。

[附属高等学校の将来構想に係る校内議論の活性化]

- ・「附属高等学校将来構想検討部会」の答申を受け、MS-26 戦略プランを作成した。

2. 財政基盤の確立

- 1) 財源の多様化の促進

[教育環境整備に係る支援]

- ・PTAより附属高等学校の教育環境整備を目的とした寄附がなされた。

[生徒会活動に係る支援]

- ・PTA及び同窓会より生徒会に対する支援を目的とした寄附がなされた。

[課外活動に対する激励金等による支援]

- ・PTAより31部、3同好会、SSH、生徒会に対して激励金が給付された。また、全国大会（高校総体、国体等）に出場した9部に対し、PTA及び同窓会より激励金が給付された。

3. 中村キャンパス全体の整備

- 1) 中長期の施設計画案の検討

[中村キャンパス全体の整備ワーキンググループの設置]

- ・開学90周年を目途に、附属高等学校に設置した「中村キャンパス全体の整備ワーキンググループ」において議論を進めることを確認した。

[附属高等学校隣地（中村区新富町1丁目）の購入]

- ・附属高等学校隣地（中村区新富町1丁目）の土地207.88㎡を購入した。

(経営改革)**3. 組織マネジメント改革**

1) 組織運営体制の整備

〔各部署からの報告体制を強化〕

- ・ 高校運営会議メンバーを中心に、更に組織的な運営ができるような学科及び分掌の体制強化を図った。

〔高校内規の全面的見直し〕

- ・ 2012年度に続き、高校内規の全面的な見直しを継続的に整備した。

2) 安心安全体制の構築

〔防火防災委員会の充実〕

- ・ 高校としての防災体制の強化を図り、生徒、教職員のすべてに「帰宅支援キット」の整備を実施した。
- ・ 校内の防災用品の準備と適切な場所への備え付けを行った。
- ・ 防火防災訓練及び教員講習会を実施した。

(成果指標)

- ・ 寄附金額（現物寄附除く）・・・(H19) 55,586 千円 → (H20) 56,191 千円
→ (H21) 55,461 千円 → (H22) 55,423 千円 → (H23) 55,892 千円
→ (H24) 56,898 千円 → (H25) 70,755 千円 → (H26) 56,647 千円
- ・ 補助金額・・・(H19) 785,957 千円 → (H20) 791,813 千円 → (H21) 832,945 千円
→ (H22) 744,416 千円 → (H23) 730,742 千円 → (H24) 732,140 千円
→ (H25) 730,876 千円 → (H26) 737,787 千円
- ・ 教員専任率・・・(H20) 78.1% → (H21) 83.0% → (H22) 86.5%
→ (H23) 87.4% → (H24) 86.7% → (H25) 88.1% → (H26) 85.7%

上記は「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づく専任教員数
(第六次の基準は生徒数)

「2014年度 MS-15 活動報告書」

編 集 学校法人名城大学
MS-26 推進室
経営本部総合政策部

発 行 2015年5月作成

